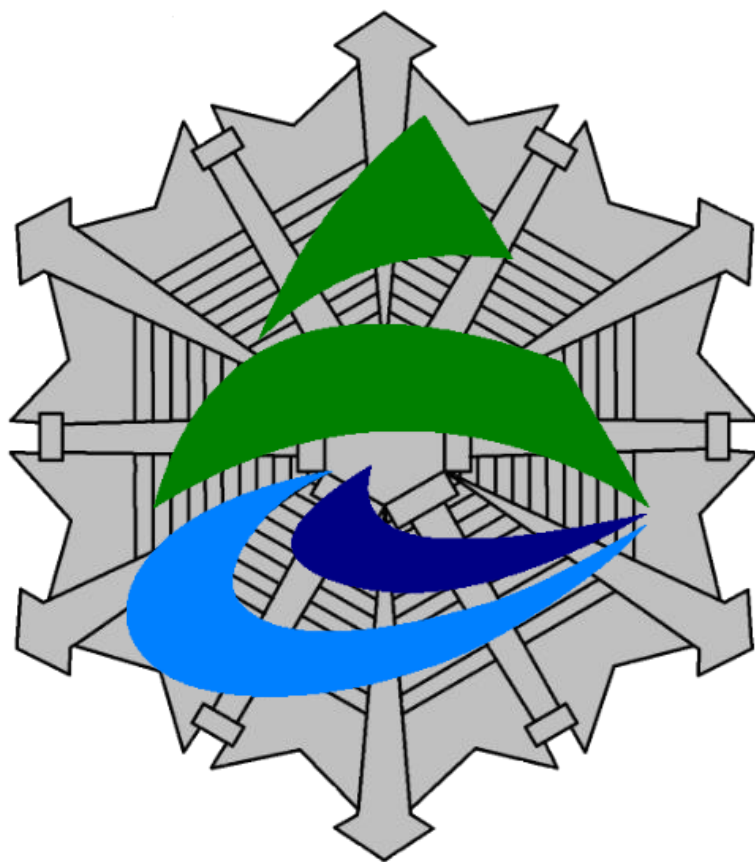


令和5年(2023年)版

消 防 年 報



海南市消防本部

ま え が き

この年報は、海南市消防本部管内の消防現勢及び令和4年中の消防業務に関する諸般の状況を収録し、本市消防の実情を広く一般に紹介するとともにこれからの消防行政を推進する資料とするため編集したものであります。

消防行政の現況をご理解いただき、今後の防火防災の一助として本書をご活用いただければ幸いと存じます。

令和5年6月

海南市消防本部

〒642-0002

海南市日方1294番地13

T E L 073-482-0119

F A X 073-482-0088

E-Mail syobosomu@city.kainan.lg.jp

H. P <https://www.city.kainan.lg.jp>

目 次

海南市の概況	1
消防の歩み	2
海南市消防本部 署所位置図	10
消防本部（署・所）の部	
事務分掌	14
消防施設（建物）の現況	18
歴代消防長	19
消防の組織	20
消防職員の配置状況	21
年齢別・階級別職員数、在職年数別・階級別職員数	22
消防職員の免許・資格等取得状況	23
消防車両配置状況（消防本部・海南消防署・下津消防署・東出張所）	24
消防予算	25
消防応援協定	26
各種団体、住宅防火診断・住宅用火災警報器の設置推進状況	27
防火対象物の状況	28
地区別消防水利状況	29
危険物施設の状況	30
海南市内における特定事業所の状況	31
普通・上級救命講習実施状況	32
応急手当講習会実施状況	33
通信の部	
消防通信施設の現況・119番受信件数	36
気象年報	37
消防通信施設①	38
消防通信施設②	39
火災の部	
火災概況	42
前年との比較	43
地区別発生状況	44
月別発生状況	45
曜日別発生状況	46
時間別発生状況	47
覚知方法別出火件数、火元建物の用途別火災件数	48
原因別発生状況、気象別発生状況	49

救急の部

救急概況	52
前年との比較	53
月別出場件数	54
地区別出場件数	55
署・所別出場件数、搬送先医療機関	56
曜日別出場件数	57
覚知別出場件数	58
時間別出場件数	59
現場到着までの所要時間別出場件数、病院収容までの所要時間別搬送人員	60
事故種別傷病程度別搬送人員	61
事故種別年齢区分別搬送人員	62
救急隊員の行った処置件数	63

救助の部

救助概況	66
前年との比較、月別・地区別出動件数	67

消防団の部

消防団の歩み	70
消防団表彰歴	73
消防操法大会成績	74
歴代消防団長	75
消防団の組織	76
消防団員報酬、消防団員地区別人員及び器具等配置状況	77
年齢別・階級別消防団員数、勤続年数別・階級別消防団員数	78
消防団の施設①	79
消防団の施設②	80
消防団の施設③	81
消防団車両配備状況①	82
消防団車両配備状況②	83
消防団車両配備状況③	84
消防団車両配備状況④	85
年間行事・活動内容	86

【海南市の概況】

海南市は、平成17年4月1日に旧海南市と旧下津町が合併し誕生した市で「元気 ふれあい 安心のまち 海南」を将来像としています。

黒潮の影響により四季を通し比較的温暖な気候に恵まれていることから、昔から南部ではみかん栽培が盛んで、貯蔵した晩生みかんである「蔵出しみかん」が好評を博しています。さらに、びわ桃の栽培が活発であるほか、紀伊水道を臨む沿岸部ではシラス・ハモ・ワカメなど海の幸にも恵まれ、つり公園シモツピアーランドでは季節ごとにいろいろな魚を釣ることができます。

産業面では日本四大漆器の一つである「紀州漆器」の産地としても知られ、日用家庭用品（特に水まわり製品）の出荷も全国的に高いシェアを上げ、需要に合った製品開発が活発に行われています。

また、万葉の昔から和歌にも詠まれている名勝の地である海南市には、いにしへの都人が訪れ詠んだ歌も多く、景色を愛で、恋する人を想う歌などの14首の万葉歌碑が建っています。

そして、今も往時の面影を残す熊野古道が南北に走り、そこに9つの王子跡が点在しています。

現在の海南市には阪和自動車道に3つのインターチェンジがあり、大阪市内や関西国際空港からのアクセスが非常に良好になっています。

《位置と地勢》

和歌山県の北西部に位置し、北は和歌山市、東は紀美野町、南は有田市に隣接しています。中央に藤白山脈、南に長峰山脈が走り、緑豊かな自然が豊富で、西は紀伊水道に面し、美しい海を見渡すことができます。

面積	101.06km ²	位置
人口	47,593人	
世帯数	21,978世帯	
(令和5年3月31日現在)		



【旧海南市・消防の歩み】

明治	27 年	5 月	黒江・日方・内海各町と大野村に消防組を設置する。
昭和	9 年	5 月	黒江・日方・内海各町と大野村の合併により海南市が誕生し、ポンプ（ガソリンポンプ、蒸気ポンプ、手押しポンプ）合わせて 10 台と消防組員 250 人により組織され、海南市消防組として発足する。
昭和	14 年	4 月	警防団と改名し、併行して常備消防部が組織され消防車 1 台を配置し、部員 13 名をもって市庁舎の一角に発足する。
昭和	22 年	4 月	警防団から消防団に改名する。
昭和	23 年	5 月	消防組織法の制定により警察行政の傘下にあった消防行政部門が分離され、自治体消防に生まれ変わる。
			消防団も黒江・日方・内海・大野・冷水地区の 5 分団に組織する。
昭和	24 年	3 月	消防団常備部を廃止、消防本部・消防署に改め、1 消防本部・1 消防署・1 消防団となる。（3 月 7 日発足）
昭和	34 年		海南市内に上水道が完成し、同時に消防用消火栓が設置された。
昭和	35 年		消防職員が増員され 28 名となる。
昭和	38 年	9 月	東部地区の防災体制充実のため、海南市野上中 167 番地 5 に東分遣所を開所、消防職員 28 名から増員され 33 名となる。
昭和	39 年	9 月	消防職員 33 名から増員され 35 名となる。
昭和	40 年	4 月	消防無線局を開設し、基地局 1 局・移動局 2 局で運用開始する。
		9 月	海南市日方 1271 番地 5 に消防庁舎（鉄筋コンクリート 2 階建 470.24 m ² ）竣工、同時に第 1 水防倉庫（鉄筋コンクリート 43.93 m ² ）竣工する。
		11 月	消防職員 35 名から増員され 39 名となる。
昭和	41 年	4 月	新庁舎で消防業務を開始する。
		7 月	隣接 3 市 1 町 5 事業所により石油コンビナート災害に備え、広域消防相互応援協定が締結される。
		8 月	消防職員 39 名から増員され 48 名となる。
昭和	45 年		消防本部事務所を増築する。（増築面積 57.6 m ² ）
昭和	46 年	8 月	和歌山下津港の船舶火災等について「田辺海上保安部と和歌山市、海南市、有田市及び下津町との消防業務協定」が締結される。
昭和	47 年		消防職員 48 名から増員され 51 名となる。
			高層建築物の火災、救助に備えて、屈折はしご付消防自動車を消防署に配置する。
昭和	48 年		消防職員 51 名から増員され 54 名となる。
			和歌山県が特殊災害対策用資機材として冷水埋立地に 37,760ℓ の泡消火剤貯蔵タンクが設置され、同時に泡原液搬送車 1 台の委託管理を受け消防署に配置する。

昭和	49 年		消防職員 54 名から増員され 59 名となる。
		6 月	東分遣所救急業務を開始する。
			阪和道路が開通し、海南市内にインターチェンジ 2 カ所できる。
昭和	50 年	4 月	消防本部 2 課制を実施、東分遣所を東出張所に昇格する。
昭和	52 年		消防職員 59 名から増員され 61 名となる。
			第 3 水防倉庫（鉄骨造 38 m ² ）竣工する。
昭和	53 年	10 月	隣接野上町との消防相互応援協定が締結される。
			高所放水車（27 m 級）を消防署に配置し石油コンビナート災害に備える。
昭和	54 年	12 月	海南市日方 1289 番地 148 に石油コンビナート用車両の倉庫（218.52 m ² ）竣工する。
			泡原液搬送車を和歌山県より、無償譲与を受け消防署に配置する。
昭和	55 年		大型化学車を消防署に配置する。
昭和	56 年		警守通信室を増築する。（増築面積 8.2 m ² ）
昭和	59 年		救助工作車（照明・クレーン・ウインチ装置付）を消防署に配置する。
		2 月	119 番受信装置・電子電話交換機を通信室に設置する。
		3 月	海南湯浅道路が開通する。
昭和	60 年	3 月	海南市野上中 166 番地 1 に東出張所（鉄骨 2 階建 246 m ² ）竣工する。
昭和	61 年		消防職員 61 名から増員され 63 名となる。
平成	2 年		耐震性貯水槽（60 m ³ 型）を日方新浜地区に新設する。
平成	4 年		通信室に聴覚障害者用ファクシミリを設置する。
			35 m 級梯子車（新潮号）を消防署に配置する。
			海南市消防本部に水難救助隊発足する。
			消防職員定数改定により、消防職員 63 名から 67 名に改正される。
平成	6 年		原液搬送車（4,000ℓ）を消防署に配備する。
			消防職員 2 名増員され 65 名となる。
			和歌山県消防ポンプ操法大会において消防ポンプの部で黒江分団が優勝、全国消防ポンプ操法大会へ県代表として出場した。
平成	7 年		消防職員 2 名増員され 67 名となる。
			救急救命士養成を開始する。
		8 月	和歌山県総合防災訓練を、海南インテリジェントパークで実施する。
		12 月	災害弱者の被害の軽減を目的とする住宅防火診断マニュアルを作成し、住宅防火診断を開始する。
平成	8 年		高規格救急車を消防署に配置する。
平成	9 年	3 月	耐震性貯水槽（100 m ³ 型）を黒江地区に新設する。
		4 月	和歌山県防災航空隊発足により、航空隊員として 1 名を派遣する。

平成 11 年	2 月	新消防庁舎（海南省日方 1 2 9 4 番地 1 3）に移転
		庁舎概要
		消防庁舎・防災センター
		構 造 鉄筋コンクリート
		階 数 3 階建 1 部平屋建
		建築面積 1, 3 7 4. 5 3 m ²
		延べ面積 2, 6 5 3. 1 6 m ²
		訓練塔
		構 造 鉄筋コンクリート
		階 数 5 階建
		延べ面積 1 5 9. 5 m ²
		資機材備蓄倉庫
		構 造 鉄骨造平屋建
		延べ面積 6 0. 5 9 m ²
		防火水槽
		4 0 m ³ 級
		庁舎竣工式
		緊急消防通信指令装置を新規導入する。
	4 月	4 月 1 日より新庁舎にて業務開始する。
	5 月	耐震性貯水槽（飲料水兼用 1 0 0 m ³ 型）を日方地区に新設する。
	7 月	高規格救急車を東出張所に配置する。
	11 月	事業所を対象とした防火管理者資格講習会開催する。（以後、2 年毎に開催予定）
平成 13 年	1 月	耐震性貯水槽 6 0 m ³ 型を野上中地区に新設する。
平成 14 年	12 月	海南省・下津町合併研究会が発足される。
平成 15 年	3 月	高規格救急車 1 台を消防署に配置し全救急車両が高規格救急車となる。
	4 月	初の女性消防職員を 1 名採用。
	6 月	第 1 回海南省・下津町合併協議会が開催される。
平成 16 年	3 月	大型化学高所放水車（2 2 m 級）を消防署に配置する。

【旧下津町・消防の歩み】

昭和	34 年	12 月	下津消防本部（署）発足。本部員 2 名・兼務 5 名
昭和	36 年	3 月	化学消防車を消防署に配備する。
昭和	37 年	3 月	下津町火災予防条例を制定する。
		12 月	下津町防災会議条例を制定する。
昭和	41 年	7 月	隣接 3 市 1 町 5 事業所により石油コンビナート災害に備え、広域消防相互応援協定が締結される。
昭和	43 年	8 月	有田市と下津町の境界線付近等の火災について「有田市と下津町との消防に関する相互応援協定」が締結される。
昭和	47 年	4 月	「消防本部及び消防署を置かなければならない町村を指定する告示」（昭和 46 年 6 月 1 日 自治省告示 110 号）により政令指定。
		7 月	下津町消防本部及び消防署設置等に関する町条例制定する。
			消防本部（署）を下津支所（旧役場 下津町下津 500 番地 1）に移転する。
		8 月	県下消防団ポンプ操法大会において大崎分団方班優勝（小型ポンプの部）
		10 月	全国消防団ポンプ操法に大崎分団方班出場。
昭和	48 年	12 月	消防無線開局（基地局 1、移動局 5）
昭和	49 年	4 月	大型放水砲（3,000ℓ型）消防署に配備する。
		8 月	県下消防団ポンプ操法大会において仁義分団優勝（ポンプ車の部）
		11 月	全国消防団ポンプ操法に仁義分団出場。
昭和	52 年	4 月	百垣内地区消火栓通水式。
昭和	53 年	2 月	大型化学消防車を消防署に配備する。
		7 月	下津分団上班消防器具置場格納庫完成。
昭和	54 年	3 月	梯子付大型高所放水車を消防署に配備する。
昭和	55 年	1 月	新消防庁舎（下津町下津 518 番地 6）に移転、業務開始。
			庁舎概要
			構 造 鉄筋コンクリート造
			階 数 3 階、塔屋 1 階建
			敷地面積 1,385.18㎡
			建築面積 679.49㎡
			庁舎竣工式
昭和	55 年	2 月	泡原液搬送車（4,000ℓ）消防署に配備する。
		11 月	消防百年記念消防団全国大会
昭和	56 年	3 月	消防無線前進基地局「下津消防まるた」1 局移動局「下津消防 8」運用開始
			脇ノ浜地区防火水槽（100㎡）完成
昭和	57 年	3 月	町防災無線 完成
		11 月	町防災会館 完成
昭和	58 年	2 月	加茂分団下・小・梅班 器具置場移転

昭和	58 年	6 月	救助用ボート（アキレス）消防署に配備する。
昭和	59 年	2 月	大崎分団戸坂班器具置場 完成 塩津分団器具置場 完成
		3 月	海南湯浅道路が開通する。
		12 月	県共通波無線局設置
昭和	60 年	3 月	救助工作車を消防署に配備する。
昭和	61 年	3 月	大崎分団戸坂班器具置場 完成 大崎分団大崎班器具置場 完成 加茂分団橋本班器具置場 完成 下津分団脇ノ浜班器具置場 完成 下津分団上班器具置場 完成
		9 月	塩津幼稚園幼年消防クラブ発足
		12 月	下津分団鯉川班器具置場 完成 下津分団小原班器具置場 完成 下津分団小畑班器具置場 完成 加茂分団大窪班器具置場 完成 加茂分団市坪班器具置場 完成 加茂分団青枝班器具置場 完成
昭和	62 年	1 月	日消特別表彰「まとい」授彰式 日本消防会館 塩津地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
		3 月	加茂分団下・小・梅班器具置場 完成 大崎分団三郷班器具置場 完成
		11 月	沓掛地区 防火水槽（50 m ³ ）完成
		12 月	大崎分団方班器具置場 完成 加茂分団小松原班器具置場 完成
昭和	63 年	2 月	水槽車（水積載6,500ℓ）を消防署に配備する。
		10 月	大崎地区 防火水槽（50 m ³ ）完成 笠畑地区 防火水槽（50 m ³ ）完成
平成	3 年	2 月	沓掛地区 防火水槽（50 m ³ ）完成 大崎地区 防火水槽（50 m ³ ）完成
		3 月	加茂分団中班器具置場 完成 丸田地区 防火水槽（100 m ³ ）完成 大型化学消防自動車を消防署に更新配備する。
平成	4 年	2 月	梯子付大型高所放水車を消防署に更新配備する。
		10 月	黒田地区 防火水槽（50 m ³ ）完成 土井原地区 防火水槽（50 m ³ ）完成

平成 5 年	9 月	塩津地区 防火水槽（50m ³ ）完成
	11 月	小畑地区 防火水槽（50m ³ ）完成
		大崎地区 防火水槽（50m ³ ）完成
平成 7 年	1 月	Ⅱ型化学消防自動車を消防署に更新配備する。
	11 月	下地区 防火水槽（50m ³ ）完成
平成 8 年	4 月	救急救命士養成を開始する。
	11 月	方地区 防火水槽（100m ³ ）完成
平成 10 年	1 月	丁地区 防火水槽（50m ³ ）完成
	3 月	高規格救急車を消防署に配備する。
	12 月	小畑地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 11 年	3 月	泡原液搬送車（4,000ℓ）を消防署に更新配備する。
	12 月	塩津地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 12 年	10 月	新田地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 13 年	4 月	新消防緊急通信指令装置（Ⅰ型）運用開始
	10 月	青枝地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 14 年	3 月	ポンプ車（CD-1）を消防署に更新配備する。
	11 月	上地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 15 年	9 月	第40回 和歌山県総合防災訓練（下津町潮見台）
	10 月	市坪地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成 17 年	2 月	指揮車を消防署に更新配備する。
		支援広報車を消防署に更新配備する。
	3 月	小型動力ポンプ軽積載車を消防署に更新配備する。
		高規格救急車を消防署に更新配備する。

【海南市・消防の歩み】

平成 17 年	4 月	旧海南市と旧下津町が合併し、新海南市が誕生。本部所有車両（消防ポンプ自動車等 40 台）、団所有車両等（ポンプ自動車 12 台・小型動力ポンプ積載車 40 台・小型ポンプ 7 台）、職員 101 名・消防団員 733 名により組織され、海南市消防本部として発足した。
	12 月	大窪地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 18 年	3 月	高機能消防指令センターを新たに構築し、合併後の通信指令業務の統一を図る。 消防無線設備を更新し、合併後の無線通信体制の整備を図る。
	11 月	指揮車を海南消防署に配備 野上中地区・戸坂地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 19 年	3 月	ポンプ車（CD-I）を海南消防署東出張所に更新配備 小型動力ポンプ軽積載車を海南消防署東出張所に更新配備 下津消防署耐震補強工事完了
	4 月	防災航空隊に職員 1 名派遣
	10 月	海南市婦人消防隊が横浜市において開催された第 18 回全国女性消防操法大会に出場 興地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 20 年	3 月	下津小学校飲料水兼用防火水槽（100 m ³ ）完成
	10 月	下地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
	12 月	方地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 21 年	1 月	救助工作車を海南消防署に更新配備
	12 月	日方地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 22 年	2 月	岡田地区 防火水槽（20 m ³ ）完成
	3 月	救助資機材搬送車を下津消防署に配備
平成 23 年	3 月	高規格救急車を海南消防署に更新配備
平成 24 年	3 月	高規格救急車を下津消防署に更新配備
平成 24 年	11 月	水防用資機材倉庫アルミ製コンテナを東出張所に配備
平成 25 年	10 月	海南市、和歌山市、那賀消防組合及び紀美野町消防通信指令事務協議会設置調印
平成 26 年	1 月	下津野地区 防火水槽（40 m ³ ）完成
平成 27 年	3 月	高規格救急車を東出張所に更新配備
	4 月	和歌山広域消防指令センターを開設し、海南市、和歌山市、那賀消防組合、紀美野町各消防本部の通信指令業務の共同運用を開始 消防救急デジタル無線運用開始
平成 28 年	1 月	高層建築物の火災、救助に備えて、屈折はしご付消防自動車を海南消防署に更新配備
	4 日	防災航空隊に職員 1 名派遣
	9 月	黒江地区 防火水槽（40 m ³ ）完成

平成	29 年	11 月	阪井地区 防火水槽（40m ³ ）完成
平成	30 年	4 月	消防庁の女性消防吏員活躍推進アドバイザーに職員1名が就任
		11 月	鯉川地区 防火水槽（40m ³ ）完成
		12 月	ポンプ車（CD-I）を海南消防署に更新配備
平成	31 年	1 月	資材搬送車を海南消防署東出張所に配備
		3 月	第2水防倉庫を且来地区に更新配備
令和	2 年	1 月	消防用小型多目的自動車を海南消防署に配備
		2 月	ポンプ車（CD-I）を下津消防署に更新配備
			高規格救急車を海南消防署に更新配備
		12 月	船尾地区 防火水槽（40m ³ ）完成
令和	3 年	1 月	化学消防車（I型）を海南消防署に更新配備
		2 月	資材搬送車を海南消防署に更新配備
		3 月	資材搬送車を下津消防署に更新配備
		12 月	救助用ボートを下津消防署に更新配備
			上谷地区 防火水槽（40m ³ ）完成
令和	4 年	1 月	小型動力ポンプ軽積載車を海南消防署に更新配備
令和	5 年	2 月	高規格救急車を下津消防署に更新配備

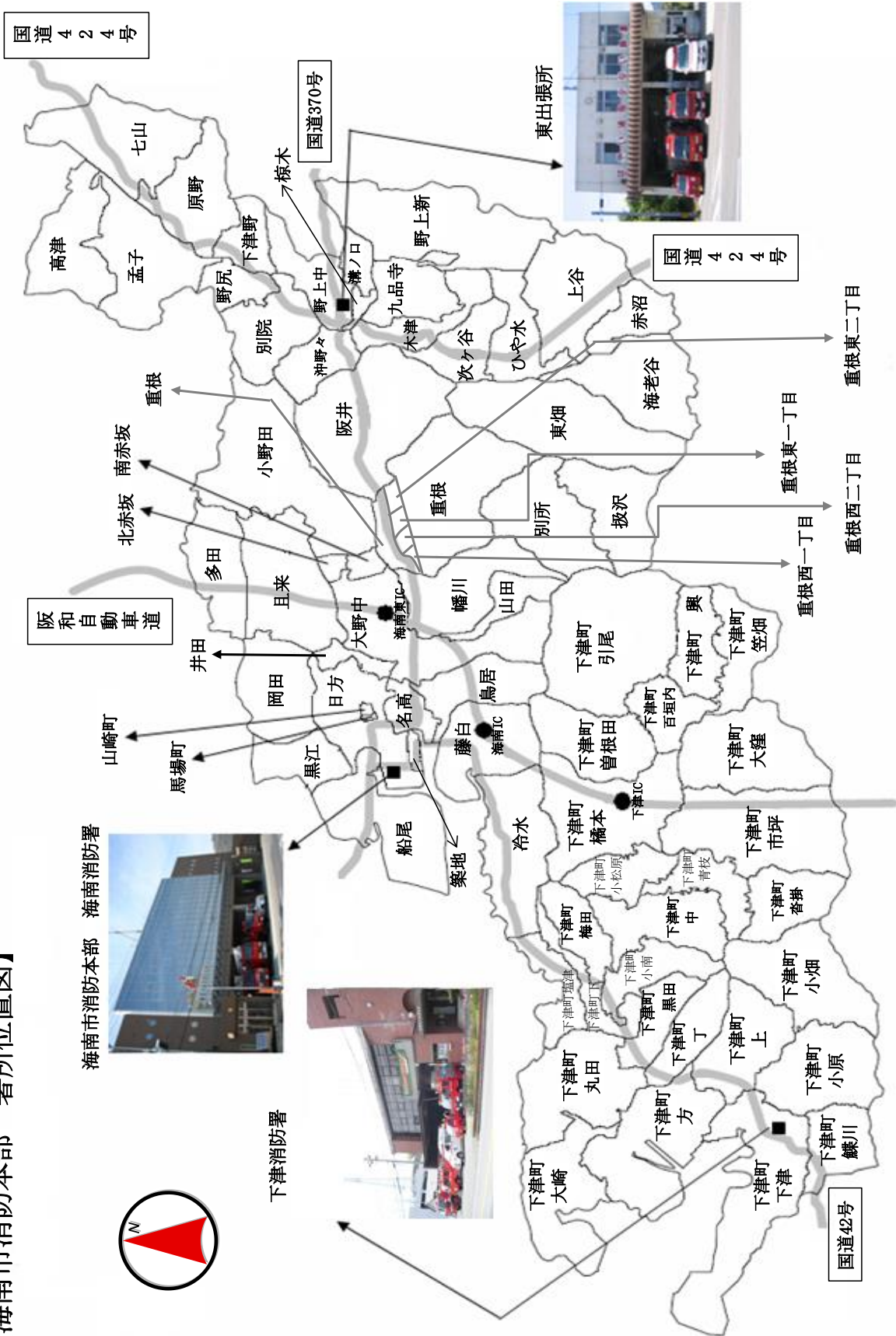
【海南省消防本部 署所位置図】



海南消防本部 海南消防署



下津消防署



高規格救急車（下津消防署配備）

新しく高規格救急車を下津消防署に配備し、令和 5 年 2 月 27 日より運用を開始しました。
今回更新した救急車内には新たに自動心臓マッサージ器を導入しました。



自動心臓マッサージ器

この機器は、心停止となった傷病者に重要である胸骨圧迫を一定のテンポ、強さで行える機器です。長距離の搬送でも効果的で安定した胸骨圧迫を実施することが可能となります。



【消防本部（署・所）の部】



【事務分掌】

総務課

- 1 条例、規則、規程等の制定及び改廃に関する事。
- 2 国、県補助金申請等に関する事。
- 3 公印の管理に関する事。
- 4 文書の收受、発送及び整理保管に関する事。
- 5 予算及び決算に関する事。
- 6 職員及び消防団員の任免等人事に関する事。
- 7 職員の給与及び消防団員の報酬等に関する事。
- 8 職員及び消防団員の福利厚生及び給貸与品に関する事。
- 9 職員及び消防団員の公務災害補償に関する事。
- 10 物品の購入及び出納に関する事。
- 11 消防職員委員会及び消防長会等に関する事。
- 12 消防庁舎の維持管理に関する事。
- 13 防災センターに関する事。
- 14 消防団員の教養研修に関する事。
- 15 消防団員の諸会議及び諸行事に関する事。
- 16 消防団施設に関する事。
- 17 その他消防団に関する事。
- 18 他の課の所管に属さない事項に関する事。

庶務係

- 1 条例、規則、規程等の制定及び改廃に関する事。
- 2 国、県補助金申請等に関する事。
- 3 公印の管理に関する事。
- 4 文書の收受、発送及び整理保管に関する事。
- 5 予算及び決算に関する事。
- 6 職員の任免等人事に関する事。
- 7 職員の給与及び消防団員の報酬等に関する事。
- 8 職員の福利厚生及び給貸与品に関する事。
- 9 職員の公務災害補償に関する事。
- 10 物品の購入及び出納に関する事。
- 11 消防職員委員会及び消防長会等に関する事。
- 12 消防庁舎の維持管理に関する事。
- 13 防災センターに関する事。
- 14 他の課係の所管に属さない事項に関する事。

総務課

消防団係

- 1 消防団員の教養研修に関すること。
- 2 消防団員の任免等人事に関すること。
- 3 消防団員の福利厚生及び給貸与品に関すること。
- 4 消防団員の公務災害補償に関すること。
- 5 消防団員の諸会議及び諸行事に関すること。
- 6 消防団施設に関すること。
- 7 各前号に掲げるもののほか、消防団に関すること。

警防課

- 1 消防計画に関すること。
- 2 水火災等の警戒及び防御に関すること。
- 3 災害の警備に関すること。
- 4 消防及び水防訓練に関すること。
- 5 自衛消防組織及び自主防災組織の訓練指導に関すること。
- 6 石油コンビナート等災害防止法(昭和50年法律第84号)に係る事務に関すること。
- 7 防災啓発及びその他警防に関すること。
- 8 消防地水利の開発及び保全に関すること。
- 9 水防倉庫等及び水防資機材等の保全に関すること。
- 10 消防通信に関すること。
- 11 救急救助に関すること。
- 12 前各号に掲げるもののほか、警防業務及び施設管理運用に関すること。

警防係

- 1 消防計画に関すること。
- 2 水火災等の警戒及び防御に関すること。
- 3 災害の警備に関すること。
- 4 消防及び水防訓練に関すること。
- 5 自衛消防組織及び自主防災組織の訓練指導に関すること。
- 6 石油コンビナート等災害防止法(昭和50年法律第84号)に係る事務に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、防災啓発及びその他警防に関すること。

施設係

- 1 消防地水利の開発及び保全に関すること。
- 2 水防倉庫等及び水防資機材等の保全に関すること。
- 3 前2号に掲げるもののほか、施設管理運用に関すること。

予防課

- 1 火災予防の対策及び広報に関すること。
- 2 予防査察及び防火指導に関すること。

予防課

- 3 防火管理者に関すること。
- 4 消防用設備等の設置指導に関すること。
- 5 予防関係各届出の事務処理に関すること。
- 6 防火運動に関すること。
- 7 建築物の確認、許認可の同意事務及び各種証明に関すること。
- 8 指定可燃物の規制に関すること。
- 9 火災の原因及び損害調査に関すること。
- 10 火災等の統計に関すること。
- 11 危険物の規制に関すること。
- 12 危険物取扱者及び危険物施設の管理に関すること。
- 13 液化石油ガスその他高圧ガスの防火に関すること。
- 14 火薬その他特殊な物質の防火に関すること。
- 15 前各号に掲げるもののほか、予防及び危険物に関すること。

予防係

- 1 火災予防の対策及び広報に関すること。
- 2 予防査察及び防火指導に関すること。
- 3 防火管理者に関すること。
- 4 消防用設備等の設置指導に関すること。
- 5 予防関係各届出の事務処理に関すること。
- 6 防火運動に関すること。
- 7 建築物の確認及び許認可の同意事務及び各種証明に関すること。
- 8 火災の原因及び損害調査に関すること。
- 9 火災等の統計に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、予防に関すること。

危険物係

- 1 危険物の規制に関すること。
- 2 指定可燃物の規制に関すること。
- 3 危険物取扱者及び危険物施設の管理に関すること。
- 4 液化石油ガスその他高圧ガスの防火に関すること。
- 5 火薬その他特殊な物質の防火に関すること。
- 6 前各号に掲げるもののほか、危険物に関すること。

消防署・出張所

- 1 管轄区域内における火災予防に関すること。
- 2 管轄区域内における水火災等の警戒防御に関すること。
- 3 管轄区域内における救助業務及び救急業務に関すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、消防に関すること。

消防署・出張所

予防係

- 1 職員の服務教養に関すること。
- 2 火災予防対策及び予防広報に関すること。
- 3 予防査察及び防火指導に関すること。
- 4 防火管理者に関すること。
- 5 消防用設備等の設置指導に関すること。
- 6 危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- 7 火災の原因及び損害調査に関すること。
- 8 予防関係各種届出の事務処理に関すること。
- 9 液化石油ガスその他高圧ガスの防災に関すること。
- 10 火薬その他特殊な物質の防災に関すること。
- 11 前各号に掲げるもののほか、庶務に関すること。

警防係

- 1 火災の警戒、防御及び警防対策に関すること。
- 2 消防地水利に関すること。
- 3 水防活動に関すること。
- 4 消防及び水防訓練に関すること。
- 5 機械器具の保管及び点検に関すること。
- 6 消防団に関すること。

救急係

- 1 救急に関すること。

救助係

- 1 救助に関すること。

通信係

- 1 消防通信施設の維持、管理及び運用に関すること。
- 2 消防通信の情報収集に関すること。

【消防施設(建物)の現況】

名 称	用 途	所 在 地	構 造	面 積	竣 工 年 月
海南市消防本部 (海南消防署)	消防庁舎 防災センター	日方 1294番地13	鉄筋コンクリート 3階建 一部平屋建	建 築 1,374.53㎡ 延 床 2,653.16㎡	平成11年 2月
付 属 施 設	訓練塔		鉄筋コンクリート 5階建	延 床 159.50㎡	
	資機材備蓄 倉庫		鉄骨平屋建	延 床 60.59㎡	

名 称	用 途	所 在 地	構 造	面 積	竣 工 年 月
東 出 張 所	消防庁舎	野上中 166番地1	鉄骨2階建	246.50㎡	昭和60年 3月

名 称	用 途	所 在 地	構 造	面 積	竣 工 年 月
下 津 消 防 署	消防庁舎 庁舎内訓練塔	下津 518番地6	鉄筋コンクリート 3階建	1,405.95㎡ 30.69㎡	昭和55年 1月

名 称	用 途	所 在 地	構 造	面 積	竣 工 年 月
第1水防倉庫	水防資機材倉庫	日方 1289番地148	鉄骨平屋建	145.68㎡	昭和54年12月
防災資機材倉庫	防災資機材倉庫		鉄骨平屋建	72.84㎡	
第2水防倉庫	水防資機材倉庫	且来 272番地	鉄骨平屋建	19.50㎡	平成31年 3月
第3水防倉庫 (東出張所内)	水防資機材倉庫	野上中 166番地1	アルミ製コンテナ	14.50㎡	平成24年11月
下津水防倉庫 (庁舎中2階)	水防資機材倉庫	下津 518番地6	鉄筋コンクリート 3階建	18.15㎡	昭和55年 1月
方水防倉庫 (器具置場兼用)	水防資機材倉庫	方 385番地7	鉄骨2階建	54.02㎡	昭和62年12月
橋本水防倉庫	水防資機材倉庫	橋本 968番地	鉄骨平屋	4.41㎡	
曾根田水防倉庫 (器具置場兼用)	水防資機材倉庫	曾根田 993番地5	鉄骨平屋建	40.00㎡	平成23年 3月
塩津水防倉庫 (器具置場兼用)	水防資機材倉庫	塩津 123番地10	ブロック 平屋建	35.36㎡	昭和59年 2月

【海南市歴代消防長】

在 任 期 間	氏 名
平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日	森 澤 義 嗣
平成 18 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日	増 田 信 治
平成 21 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	岩 崎 好 生
平成 28 年 4 月 1 月～令和 3 年 3 月 31 日	杖 村 昇
令和 3 年 4 月 1 月～令和 4 年 3 月 31 日	竹 田 正 樹
令和 4 年 4 月 1 月～	山 田 量 也

【旧海南市・下津町歴代消防長】

＜旧海南市歴代消防長＞

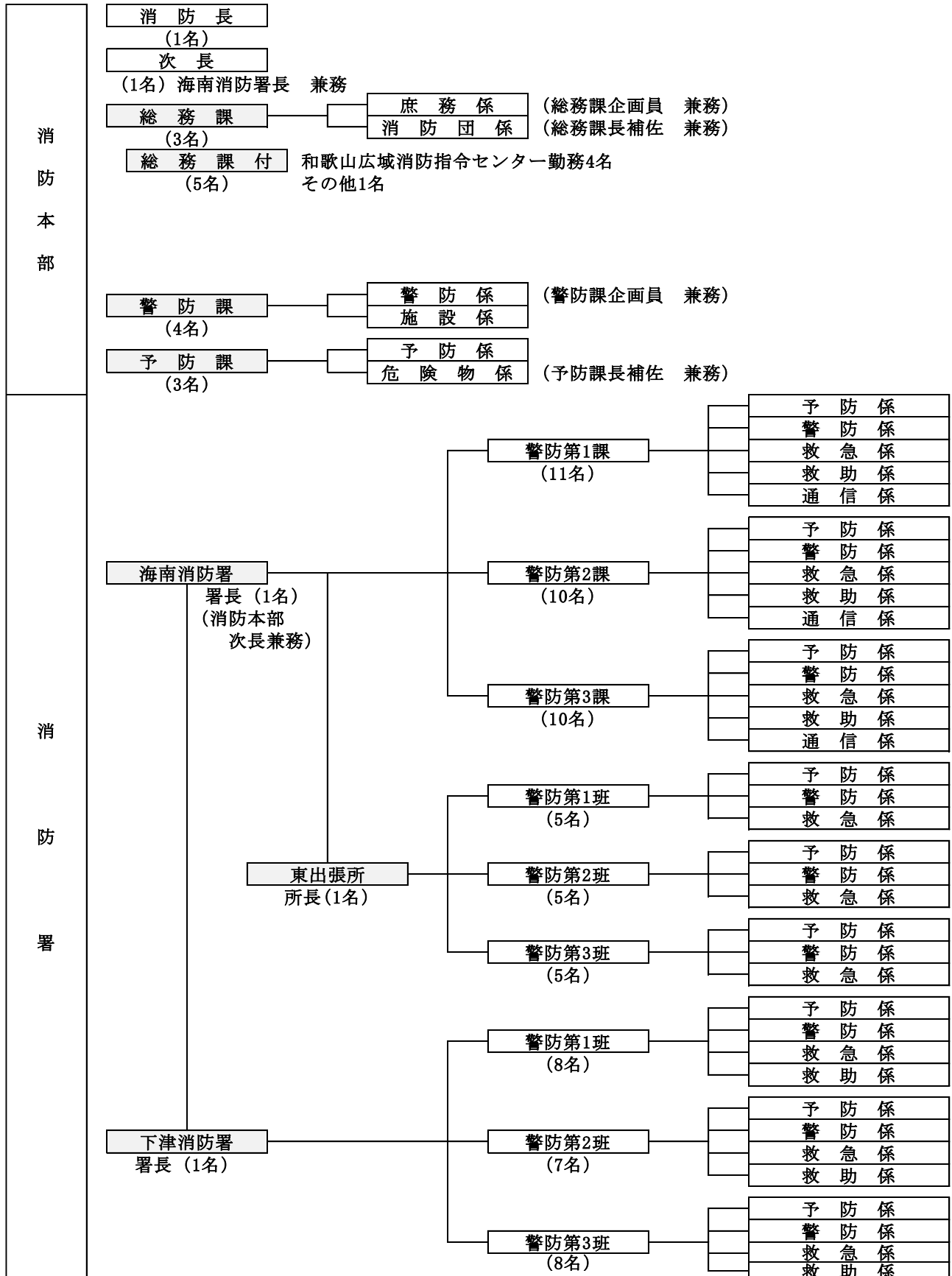
在 任 期 間	氏 名
昭和 24 年 3 月 7 日～昭和 26 年 8 月 31 日	川 端 百 三
昭和 26 年 9 月 1 日～昭和 29 年 3 月 31 日	森 本 伊 助 (市長兼務)
昭和 29 年 4 月 1 日～昭和 30 年 7 月 8 日	隅 田 修 二 (市長兼務)
昭和 30 年 7 月 9 日～昭和 33 年 1 月 16 日	高 尾 巖 (市職員兼務)
昭和 33 年 1 月 17 日～昭和 35 年 4 月 30 日	隅 田 修 二 (市長兼務)
昭和 35 年 5 月 1 日～昭和 41 年 3 月 16 日	宮 脇 新 一
昭和 41 年 3 月 17 日～昭和 41 年 4 月 6 日	高 尾 巖 (市職員兼務)
昭和 41 年 4 月 7 日～昭和 43 年 1 月 31 日	川 端 百 三
昭和 43 年 2 月 1 日～昭和 43 年 9 月 4 日	田 岡 隆 三 (市助役兼務)
昭和 43 年 9 月 5 日～昭和 49 年 5 月 16 日	前 野 才 一 郎
昭和 49 年 5 月 17 日～昭和 60 年 1 月 31 日	別 院 勢 一
昭和 60 年 2 月 1 日～平成 元年 3 月 31 日	川 下 崇
平成 元年 4 月 1 日～平成 元年 5 月 31 日	田 伏 功 (市助役兼務)
平成 元年 6 月 1 日～平成 4 年 12 月 24 日	相 尾 正 規
平成 4 年 12 月 25 日～平成 7 年 5 月 12 日	阿 弥 明
平成 7 年 5 月 13 日～平成 7 年 6 月 12 日	堀 田 輯 司 (市総務部長兼務)
平成 7 年 6 月 13 日～平成 10 年 3 月 31 日	坂 本 寿 秀
平成 10 年 4 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日	大 上 功
平成 12 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日	森 澤 義 嗣

＜旧下津町歴代消防長＞

在 任 期 間	氏 名
昭和 34 年 12 月 23 日～昭和 50 年 5 月 9 日	土 田 幸 一 郎
昭和 50 年 5 月 10 日～昭和 50 年 6 月 30 日	岩 井 茂 一
昭和 50 年 7 月 1 日～昭和 51 年 12 月 31 日	橋 本 元 市 (町長兼務)
昭和 52 年 1 月 1 日～昭和 53 年 9 月 30 日	大 坂 智 慧
昭和 53 年 10 月 1 日～昭和 53 年 11 月 30 日	丸 尾 周 治 (助役兼務)
昭和 53 年 12 月 1 日～昭和 55 年 9 月 30 日	吉 田 武 治
昭和 55 年 10 月 1 日～昭和 57 年 3 月 31 日	奥 野 敏 夫
昭和 57 年 4 月 1 日～昭和 60 年 7 月 10 日	山 下 嘉 弘
昭和 60 年 7 月 11 日～平成 5 年 3 月 31 日	大 田 優
平成 5 年 6 月 1 日～平成 10 年 3 月 31 日	川 尻 広 次
平成 10 年 4 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日	橋 本 宏 治
平成 12 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日	小 谷 志 夫
平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日	中 岡 進

【消防の組織】

令和5年4月1日 現在



【消防職員の配置状況】

令和5年4月1日 現在

階 級 所 属		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消 防 士	計
消 防 長		1						1
次長 (海南消防署長兼務)			1					1
消 防 本 部	総 務 課		3					3
	警 防 課		3	1				4
	予 防 課		2	1				3
	総 務 課 付			4			1	5
海 南 消 防 署	警防第1課		3	4	1	2	1	11
	警防第2課		3	3	2	1	1	10
	警防第3課		2	5	1	1	1	10
下 津 消 防 署	署 長		1					1
	警防第1班		2	3		2	1	8
	警防第2班		2	2		2	1	7
	警防第3班		2	3	1	1	1	8
東 出 張 所	所 長		1					1
	警防第1班		1	2		1	1	5
	警防第2班		1	2		2		5
	警防第3班		1	2	1	1		5
合 計		1	28	32	6	13	8	88

総務課付

消防司令補4名 和歌山広域消防指令センター勤務
消防士1名 その他

【年齢別・階級別職員数】

令和5年4月1日 現在

年 齢 \ 階 級	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 士 防 長	消 防 副士長	消 防 士	計
18 ～ 20						3	3
21 ～ 25					6	5	11
26 ～ 30				2	7		9
31 ～ 35			5	4			9
36 ～ 40			11				11
41 ～ 45		1	14				15
46 ～ 50		13	2				15
51 ～ 55		7					7
56 ～ 60	1	7					8
61 以 上							
合 計	1	28	32	6	13	8	88

【在職年数別・階級別職員数】

令和5年4月1日 現在

在職年数 \ 階 級	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 士 防 長	消 防 副士長	消 防 士	計
5年未満					4	8	12
5年以上 10年未満				1	9		10
10年以上 15年未満			7	5			12
15年以上 20年未満			14				14
20年以上 25年未満		2	8				10
25年以上 30年未満		10	3				13
30年以上	1	16					17
合 計	1	28	32	6	13	8	88

【消防職員の免許・資格等取得状況】

令和5年4月1日 現在

階 級 所 属			消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
自 動 車 運転免許	大型	一 種	1	28	30	6	13	4	82
		二 種		2	1				3
	中型	一 種			3				3
		二 種							
	普通	一 種	1	28	32	6	13	8	88
		二 種							
危 険 物 取 扱 免 許	甲 種			1	1				2
	乙 種	第3類		2	5				7
		第4類		8	15	1	2	1	27
		第5類		2	4				6
		第6類			2				2
消防設備士	甲 種（1～5）			1	1				2
	乙 種（6～7）			1	2	1		1	5
消防設備 点検資格者	1 種								
	2 種								
救急救命士			1	11	10	1		2	25
救急課程				10	25	5	13	6	59
救急Ⅱ課程			1	17					18
無線免許			1	28	32	6	13	8	88
電気工事士									
二級建築士				1	1				2
毒劇物取扱者					1				1
ボイラー技士									
船舶操縦士				8	7	1			16
ガス溶断技能資格				20	3				23
玉掛け資格				21	17	5	5		48
クレーン運転技能資格				11	19	3			33
潜水士免許				12	12	2	1		27
防災士			1	1	4				6
酸素欠乏危険作業主任者				16	15				31
予防技術検定（危険物）				3	4	1			8
予防技術検定（設 備）				3	5	1	1		10
予防技術検定（査 察）				3	11	2	2		18
特定化学物質・四アルキル鉛等			1	1	1	1			4

【消防車両配備状況】

令和5年4月1日 現在

名 称		登録番号	登録年	事業	車 名	型 式	排気量	小 型 力	級 別 購入年月	事業
消防本部・海南消防署	海ポンプ1	和歌山800 す 1711	H30. 12	起債	日 野	ポンプ車	4,000			
	海ポンプ2	和歌山800 さ 2494	H14. 3	石油	日 野	ポンプ車	4,890			
	海タンク1	和歌山800 さ 643	H11. 12	石油	日 野	水槽付 ポンプ車	7,960			
	海化学1	和歌山800 は 1300	R 3. 1	起債	日 野	I 型 化学車	5,120			
	海梯子1 (屈折)	和歌山800 は 1004	H 28. 1	石油 起債	日 野	梯子車 25m級	8,860			
	海原液1	和歌山88 ゆ 843	H 6. 3	国補	いすゞ	原液 搬送車	7,120			
	海高所1	和歌山800 は 308	H16. 3	国補	三 菱	大型化学 高所放水車	21,200			
	海軽積1	和歌山880 あ 2526	R 4. 1	石油	ダイハツ	軽積載車	650	シバウラ	B-2 級 R4. 1	石油
	海救工1	和歌山800 は 568	H21. 1	国補	日 野	救助 工作車	6,400			
	海救急1	和歌山800 す 2139	R 2. 1	石油 起債	トヨタ	高規格 救急車	2,690			
	海救急2	和歌山800 さ 8294	H23. 3	石油 起債	トヨタ	高規格 救急車	2,690			
	海搬送1	和歌山800 す 2654	R 3. 2	石油	トヨタ	トラック	2,980			
	海多目1	和歌山880 あ 2235	R 2. 1	石油	三 菱	ライトバン	650			
	海広報1	和歌山880 あ 239	H18. 11	石油	スズキ	ライトバン	650			
	海広報2	和歌山800 す 1726	H30. 12		スバル	S U V	2,490			
	海広報3	和歌山800 さ 5562	H18. 3	石油	ニッサン	バン	1,990			
下津消防署	下ポンプ1	和歌山800 す 2169	R 2. 2	起債	日 野	ポンプ車	4,000			
	下化学1	和歌山800 さ 1616	H13. 1	石油	日 野	I 型 化学車	7,960			
	下タンク1	和歌山88 ゆ 1376	H11. 3	石油	日 野	水槽車	7,960			
	下支援1	和歌山800 さ 7901	H22. 3	石油	トヨタ	その他 作業車	4,000			
	下救急1	和歌山800 す 3434	R 5. 1	起債	トヨタ	高規格 救急車	2,690			
	下救急2	和歌山800 さ 8743	H24. 2	石油	トヨタ	高規格 救急車	2,690			
	下軽積1	和歌山880 あ 18	H17. 2	石油	ダイハツ	軽積載車	650	トーハツ	B-3 級 H17. 2	石油
	下搬送1	和歌山800 す 2670	R 3. 2	起債	トヨタ	トラック	2,980			
	下広報1	和歌山800 さ 4633	H17. 2	石油	トヨタ	バン	1,990			
東出張所	東ポンプ1	和歌山800 さ 6301	H19. 3	石油	日 野	ポンプ車	4,000			
	東搬送1	和歌山800 す 1761	H31. 1	石油	いすゞ	トラック	2,990			
	東救急1	和歌山800 す 106	H27. 2	石油 起債	トヨタ	高規格 救急車	2,690			
	東軽積1	和歌山880 あ 302	H19. 3	石油	スズキ	軽積載車	650	シバウラ	B-3 級 H19. 3	石油

市単：単独事業 石油：石油備蓄補助 国補：国庫補助 起債：緊急防災減災事業債等の地方債

【消防予算】

(1) 一般会計と消防費の比較

単位：千円

年度別	一般会計	消防費	比較 (%)
令和 3 年度	22,708,176	871,926	3.8
令和 4 年度	24,649,780	1,023,736	4.2
令和 5 年度	23,925,326	1,184,273	4.9

(2) 令和5年度当初予算の概要

単位：千円

目	事業名	節	金額	事業計	目計	総計	
常備消防費	職員給与費	2. 給料	344,180	681,305	766,500	1,184,273	
		3. 職員手当等	219,001				
		4. 共済費	118,124				
	消防総務事務費	1. 報酬	1,390	22,582			
		3. 職員手当等	300				
		4. 共済費	273				
		8. 旅費	129				
		10. 需用費	13,598				
		11. 役務費	865				
		13. 使用料及び賃借料	317				
		18. 負担金補助及び交付金	5,710				
	消防本部運営事業	9. 交際費	20	6,511			
		10. 需用費	3,532				
		11. 役務費	2,009				
		12. 委託料	247				
		13. 使用料及び賃借料	703				
	消防庁舎等管理事業	10. 需用費	9,720	36,225			
		11. 役務費	95				
		12. 委託料	4,040				
		13. 使用料及び賃借料	94				
		18. 負担金補助及び交付金	22,276				
	消防用車両管理事業	10. 需用費	9,494	9,494			
	消防水利施設管理事業	10. 需用費	298	829			
	13. 使用料及び賃借料	531					
	火災予防推進事業	8. 旅費	54	5,754			
		10. 需用費	151				
		11. 役務費	2				
12. 委託料		5,531					
18. 負担金補助及び交付金		16					
消防職員研修事業	8. 旅費	604	3,800				
	10. 需用費	20					
	11. 役務費	324					
	12. 委託料	465					
	18. 負担金補助及び交付金	2,387					
非常備消防費	消防団等運営事業	1. 報酬	32,106	67,995	76,496		
		5. 災害補償費	100				
		7. 報償費	16,413				
		9. 交際費	50				
		10. 需用費	1,239				
		13. 使用料及び賃借料	22				
		18. 負担金補助及び交付金	18,065				
	消防団施設管理事業	10. 需用費	2,148	2,892			
		12. 委託料	54				
		13. 使用料及び賃借料	589				
		15. 原材料費	101				
	消防団車両管理事業	10. 需用費	4,256	4,256			
	消防団員研修事業	8. 旅費	19	94			
		18. 負担金補助及び交付金	75				
	消防ポンプ操法大会事業	1. 報酬	84	1,259			
	10. 需用費	1,175					
消防施設費	消防庁舎等整備事業	12. 委託料	8,003	148,043	341,208		
	消防水利施設整備事業	14. 工事請負費	140,040				
	消防用車両整備事業	18. 負担金補助及び交付金	3,950	3,950			
		10. 需用費	28				8,996
		11. 役務費	16				
		17. 備品購入費	8,945				
	消防用資機材整備事業	26. 公課費	7	2,491			
		10. 需用費	521				
		17. 備品購入費	1,970				
	消防団施設整備事業	11. 役務費	24	3,156			
		12. 委託料	1,535				
		14. 工事請負費	1,597				
	消防団車両整備事業	10. 需用費	56	11,601			
		11. 役務費	31				
17. 備品購入費		11,500					
26. 公課費		14					
消防団資機材整備事業	17. 備品購入費	2,500	2,500				
消防指令システム整備事業	18. 負担金補助及び交付金	155,807	155,807				
消防救急デジタル無線整備事業	18. 負担金補助及び交付金	4,664	4,664				
水防費	水防事業	10. 需用費	53	69	69		
		15. 原材料費	16				

【消防応援協定】

- ★ 和歌山県防災ヘリコプター応援協定
(平成 8年 3月 1日)
- ★ 和歌山北部臨海都市広域消防協定
(平成17年 4月 1日)
和歌山市・有田市・御坊市・海南市
- ★ 海南市・紀美野町消防相互応援協定
(平成18年 4月 1日)
紀美野町・海南市
- ★ 有田市・海南市消防相互応援協定
(平成19年 6月 1日)
有田市・海南市
- ★ 阪和自動車道、湯浅御坊道路、関西空港自動車道及び京奈和自動車道消防相互応援協定
(平成29年 3月18日)
堺市・和泉市・岸和田市・貝塚市・泉州南消防組合
那賀消防組合・和歌山市・有田川町・湯浅広川消防組合
日高広域消防事務組合・御坊市・田辺市・海南市
- ★ 和歌山県下消防広域相互応援協定
(平成25年 9月 2日)
- ★ 和歌山海上保安部と海南市との消防業務協定
(平成30年 3月16日)
和歌山海上保安部・海南市
- ★ 和歌山広域消防指令共同運用に係る消防相互応援協定
(平成27年 4月 1日)
和歌山市・那賀消防組合・紀美野町・海南市
- ★ 災害発生時における消防用水等の搬送に関する協定
(令和5年 4月28日)
和歌山県広域生コンクリート協同組合中央支部・海南市

【各種団体】

令和5年4月1日 現在

名 称	会 員 数	結 成 年 月 日
冷水婦人消防クラブ	7 名	昭和46年 4月 1日
南野上女性消防クラブ	5 名	昭和46年10月 2日
亀川婦人消防隊	12 名	昭和62年 4月 1日
内海婦人消防隊	9 名	平成 4年 7月 1日
海南市消防交友会	53 名	昭和59年 1月 8日

【住宅防火診断・住宅用火災警報器の設置推進状況】

現代の生活環境は、高齢化が進み、高齢者や高齢者世帯の増加に伴い、災害弱者が火災で死傷される事案が多くなっています。又、建物火災の大半を占める住宅火災の原因の中で、機器の構造不備に起因するものより、使用者の不注意によるものが多く発生しています。

こうした火災の実態をふまえ、住宅火災による死傷者の減少を目指し、地域ぐるみの防火防災対策として、住宅用火災警報器の設置を推進すると共に、防火診断を実施して安全な市民生活の確保に努めています。

住宅防火診断・住宅用火災警報器の設置推進実施表

令和4年12月1日から令和5年3月31日まで

(新型コロナウイルスの感染状況により令和4年12月から実施)

	住宅防火診断 訪問件数	住宅用火災警報器の 設置推進訪問件数
海南消防署管内	24 件	47 件
東出張所管内	107 件	49 件
下津消防署管内	14 件	0 件
計	145 件	96 件

防火診断対象世帯にあつては、一人住まいの高齢者（65歳以上）を対象にしています。

【防火対象物の状況】

令和5年4月1日 現在

項 目		名 称	対象物数（棟）
1	イ	劇場、映画館、観覧場	5
	ロ	公会堂、集会場	40
2	イ	キャバレー、ナイトクラブ	
	ロ	遊技場、ダンスホール	1
	ハ	風俗営業等	
	ニ	カラオケボックス等	
3	イ	待合、料理店	
	ロ	飲食店	23
4		百貨店、マーケット	64
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所	13
	ロ	寄宿舍、下宿、共同住宅	261
6	イ	病院、診療所、助産所	21
	ロ	福祉施設（特別養護老人ホーム等）	26
	ハ	福祉施設（老人デイサービスセンター等）	36
	ニ	幼稚園、特別支援学校	7
7		小・中・高等学校、各種学校	83
8		図書館、博物館、美術館	2
9	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ	上記以外の公衆浴場	2
10		車両の停車場、船舶・航空機の発着場	
11		神社、寺院、教会	17
12	イ	工場、作業場	300
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ	
13	イ	自動車車庫、駐車場	17
	ロ	飛行機の格納庫	
14		倉庫	264
15		前各項に該当しない事業場	183
16	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	149
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	70
16の2		地下街	
17		重要文化財	16
18		アーケード	
合 計			1,600

延べ面積150㎡以上の対象物件数

6項ロ及び17項の対象物は、全ての対象物数

【地区別消防水利状況】

令和5年4月1日 現在

地 区 名	消火栓		防火水槽		計	
		内基準適合数		内基準適合数		内基準適合数
黒 江	64	28	13	10	77	38
日 方	55	34	20	17	75	51
内 海	59	42	18	17	77	59
大 野	48	31	28	25	76	56
冷 水	8	5	5	5	13	10
亀 川	84	49	50	36	134	85
巽	67	33	44	29	111	62
中 野 上	66	30	25	21	91	51
南 野 上	44	26	15	10	59	36
北 野 上	64	48	28	15	92	63
下 津	143	48	7	7	150	55
大 崎	144	56	11	11	155	67
加 茂	103	57	7	7	110	64
塩 津	19	3	3	3	22	6
仁 義	42	11	3	3	45	14
計	1010	501	277	216	1287	717

【危険物施設の状況】

令和5年4月1日 現在

製 造 所 等 別		
製 造 所		13
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	48
	屋外タンク貯蔵所	261
	屋内タンク貯蔵所	2
	地下タンク貯蔵所	19
	簡易タンク貯蔵所	1
	移動タンク貯蔵所	84
	屋 外 貯 蔵 所	30
取 扱 所	給 油 取 扱 所	29
	第 1種販売取扱所	1
	第 2種販売取扱所	3
	移 送 取 扱 所	4
	一 般 取 扱 所	66
合 計		561

【海南市内における特定事業所の状況】

令和5年4月1日 現在

項目 \ 事業所別	下株ルコ 津式ブス 工会リモ 場社カ石 ツ	(関日 海南西本 製製鉄 鉄所株 株式 会社)	和株 E 歌式 N 山会 E 製社 O 油 S 所	海株和 E 南式歌 N 工会山 E 場社石 O 油 S 精製
所在地	海南市 下津町下津 27番地1	海南市 船尾 260番地100	有田市 初島町浜 1000番地	海南市 藤白 758番地
主 要 製品名	石油製品	縫目無鋼管	石油製品	石油製品
事業所 種 別	第 1種 事業所	第 2種 事業所	第 1種 事業所	第 1種 事業所
製造所				12施設 23, 457kL
屋 外 タンク	29基 28, 256kL	5基 125kL	46基 1, 259, 763kL	170基 249, 774kL
屋 内 タンク				1基 72kL
屋 外 貯蔵所	3施設 11, 363kL	4施設 42kL	5施設 46kL	17施設 7, 860kL
屋 内 貯蔵所	3施設 1, 148kL	16施設 63kL		8施設 2, 177kL
一 般 取扱所	9施設 6, 255kL	11施設 1, 212kL	5施設 6, 017kL	13施設 18, 624kL
移 送 取扱所			1施設 10, 000kL	3施設 93, 800kL
給 油 取扱所		1施設 32kL		

【普通・上級救命講習実施状況】

(過去3年間)

再講習を含む受講者数

年 別 住民別	令和2年	令和3年	令和4年	計
海 南 市 在 住	79	112	176	367
和歌山県 在 住	40	126	91	257
県 外 在 住	6	9	8	23
計	125	247	275	647

年 別 団体種別	令和2年	令和3年	令和4年	計
消防団				
婦人消防隊	25		26	51
特定事業所	14	15	14	43
一般事業所	18	155	139	312
市報掲載一般公募	12	28	7	47
市役所職員	15	11	10	36
学校職員		11		11
学校関係者				
職業体験			2	2
福祉施設				0
自治会		5		5
医療施設				
その他	33	13	73	119
上級救命講習（市報掲載）	8	9	4	21
計	125	247	275	647

普通救命講習については、3時間

上級救命講習については、8時間

消防団 海南市消防団員	学校職員 海南市各学校に属している教職員
婦人消防隊 海南市婦人消防隊員及び関係者	学校関係者 P T A、子ども会等で学校に関係している市民
特定事業所 日本製鉄(株)関西製鉄所(海南)に勤務する者 ENEOS和歌山石油精製(株)海南工場に勤務する者 コスモ石油ルブリカンツ(株)下津工場に勤務する者 ENEOS(株)和歌山製油所に勤務する者	職業体験 消防署に体験学習中、受講した学生 福祉施設 老人ホーム等に勤務する者 自治会 海南市各自治会での開催で受講した市民
一般事業所 特定事業所以外の事業所に勤務する者	医療施設 診療所等に勤務する者
市報掲載一般公募 海南市報にて募集し受講した市民	その他 記載団体種別以外の者
市役所職員 海南市役所に勤務する職員	

【応急手当講習会実施状況】

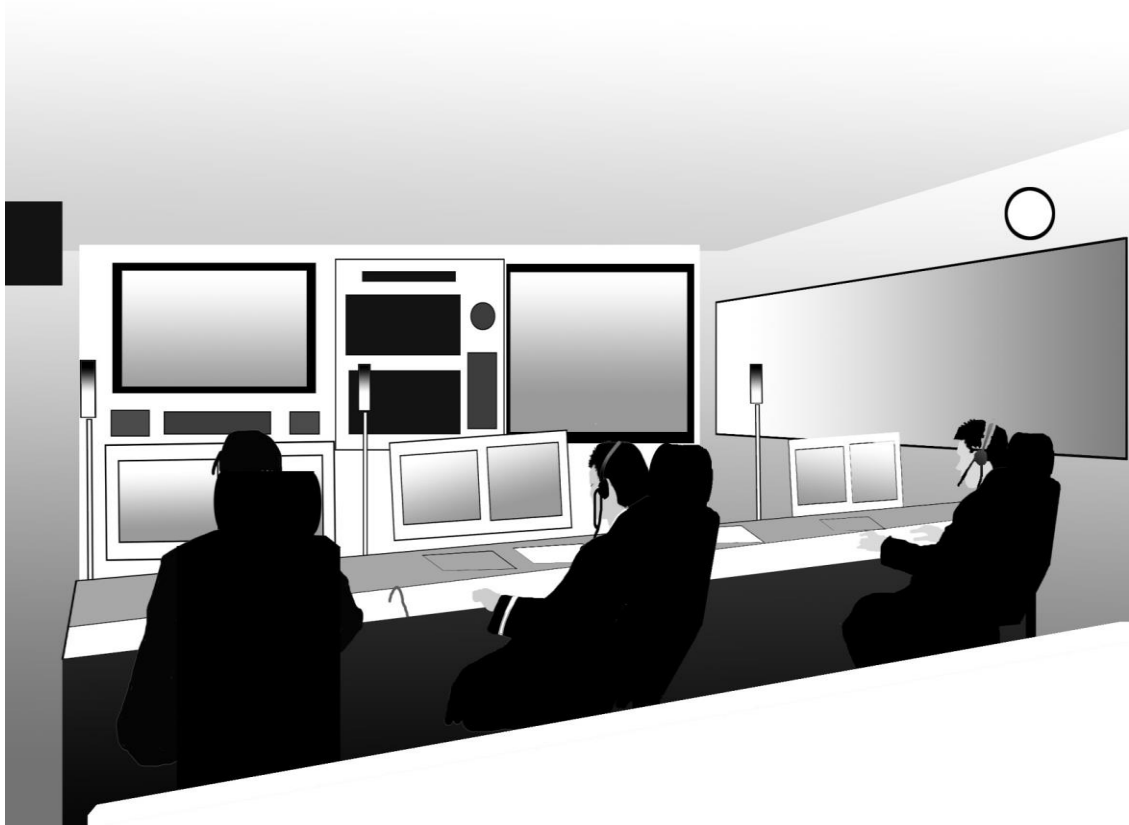
(過去3年間)

3時間未満の受講者数

年 別 団体種別	令和2年	令和3年	令和4年	計
消防団				
婦人消防隊				
特定事業所				
一般事業所	47	99	140	286
市報掲載一般公募				
市役所職員				
学校職員	62	106	151	319
学校関係者	185	175	285	645
職業体験				
福祉施設	77	51	33	161
自治会			10	10
医療施設				
その他	125	36	118	279
計	496	467	737	1,700

消防団 海南市消防団員	学校職員 海南市各学校に属している教職員
婦人消防隊 海南市婦人消防隊員及び関係者	学校関係者 P T A、子ども会等で学校に関係している市民
特定事業所 日本製鉄(株)関西製鉄所(海南)に勤務する者 ENEOS和歌山石油精製(株)海南工場に勤務する者 コスモ石油ルブリカンツ(株)下津工場に勤務する者 ENEOS(株)和歌山製油所に勤務する者	職業体験 消防署に体験学習中、受講した学生
	福祉施設 老人ホーム等に勤務する者
	自治会 海南市各自治会での開催で受講した市民
一般事業所 特定事業所以外の事業所に勤務する者	医療施設 診療所等に勤務する者
市報掲載一般公募 海南市報にて募集し受講した市民	その他 記載団体種別以外の者
市役所職員 海南市役所に勤務する職員	

【通信の部】

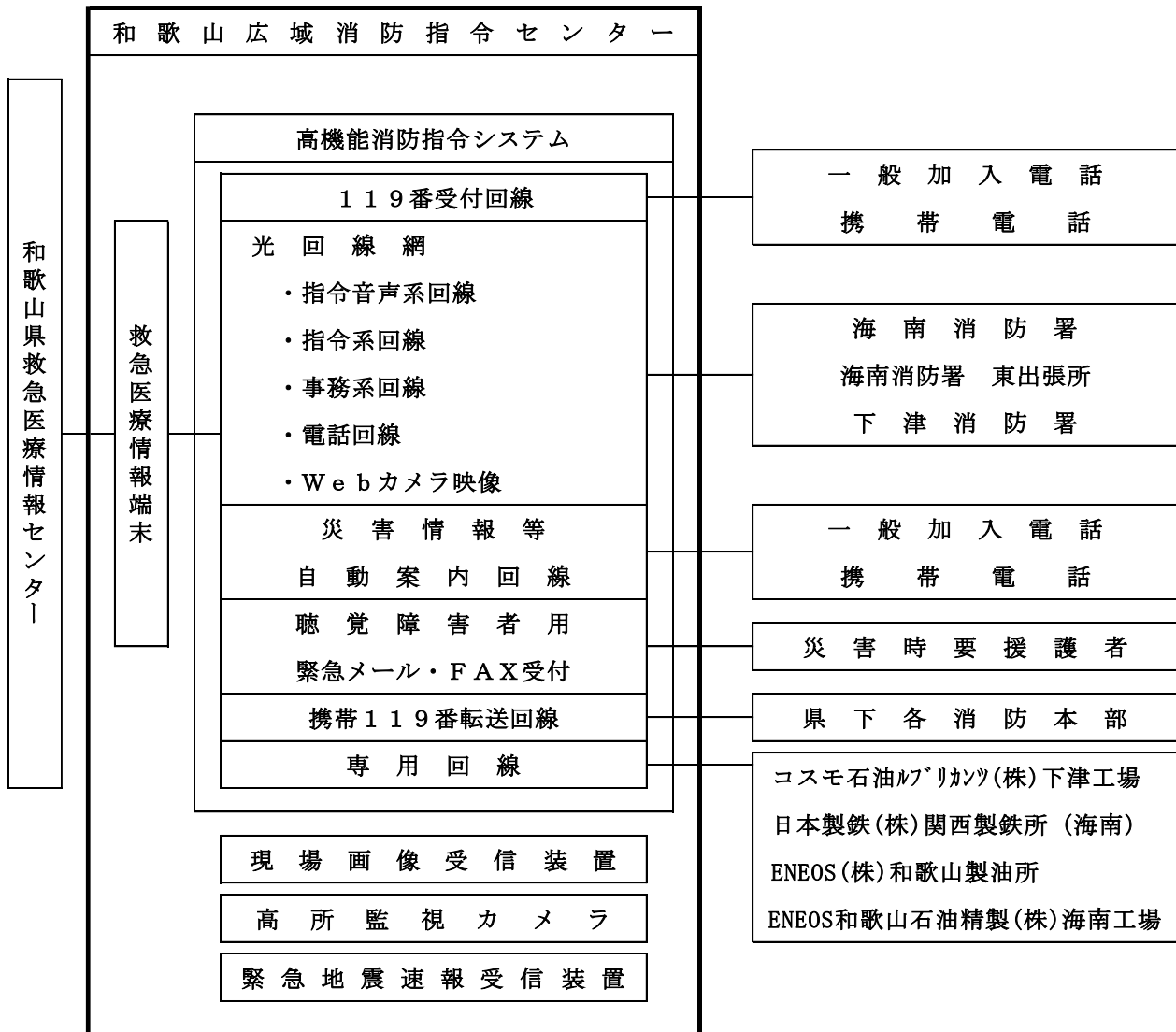


【消防通信施設の現況・１１９番受信件数】

平成２７年４月１日から海南市、和歌山市、岩出市、紀の川市、紀美野町と指令業務共同運用（４消防本部）を開始、「和歌山広域消防指令センター」を和歌山市消防局に設置し４市１町の１１９番通報を一括受信消防救急デジタル無線等の通信設備を活用し、より広域的な災害対応を行っている。

同指令センターには、高機能消防指令システム、発信地検索システム、救急医療情報システム、総合防災情報システム、消防無線（基地局）及び高所監視カメラ等を備え、火災、救急、救助、その他の災害等に関する消防通信全般を統括している。

１．系統図



２．１１９受信件数

令和４年中	指令センター受信合計	内 海南市管轄
NTT固定電話	6,899	907
IP電話	10,143	1,146
携帯電話	23,927	1,911
合 計	40,969	3,964

【気象年報】

観測場所 海南市消防本部 標高 9 m						令和4年中							
気 象		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均風速	(m/s)	2.0	2.0	1.8	1.8	1.5	2.0	1.7	1.8	1.9	1.7	1.5	2.0
平均風向		東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	西	西	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東
瞬間最大	風 速 (m/s)	19.6	18.3	29.2	23.4	14.0	25.0	19.8	18.2	27.1	15.5	21.7	19.6
瞬間最大時	風 向	西北西	西	南南東	南南東	北北東	南南東	南西	南南西	南南東	東南東	南南西	西
気 温	月平均 (℃)	5.2	4.9	11.6	16.4	19.2	24.1	28.1	29.4	25.9	18.6	14.9	7.5
相対湿度	月平均 (%)	67.6	64.7	69.8	72.5	72.4	79.6	82.0	80.9	83.1	77.7	80.1	69.2
平 均 気 圧	現地気圧 (hPa)	1018.9	1019.9	1015.5	1015.1	1011.6	1008.6	1006.3	1007.3	1010.1	1017.7	1017.9	1018.6
	海面気圧 (hPa)	1019.5	1020.5	1016.1	1015.7	1012.2	1009.2	1006.9	1007.9	1010.7	1018.3	1018.5	1019.2
雨 量	月積算 (mm)	8.5	6.5	77.0	103.0	134.0	34.0	126.5	104.0	229.0	78.0	56.5	28.5

最高海面気圧 2月18日 10時09分 1029.4hPa

最高現地気圧 2月18日 10時09分 1028.8hPa

最低気温 2月 25日 6時29分 -1.0℃

最低現地気圧及び最低海面気圧 9月 19日 14時50分 987.7hPa及び988.3hPa

最高気温 8月 9日 13時31分 36.4℃

瞬間最大風速 3月 26日 14時34分 29.2m/s

令和4年中の総雨量 985.5mmを観測

【消防通信施設 ①】

統 制 局	呼 出 名 称	所 在 地
	わかやましれいせんたー	和歌山市八番丁12番（和歌山市消防局内）

基 地 局	呼 出 名 称	所 在 地
	かいなんしょうぼういちみね	海南市重根1898
	かいなんしょうぼうまるた	海南市下津町丸田1219-23

移 動 局 （ 車 載 ）	《 海 南 消 防 署 》								
	呼 出 名 称	車 名	実 装 波 種						A V M
	かいなんぼんぷ1	海ポンプ1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんぼんぷ2	海ポンプ2	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんはんそう1	海搬送1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんけいせき1	海軽積1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんかがく1	海化学1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんはしご1	海梯子1（屈折）	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんこうしょ1	海高所1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんきゅうこう1	海救工1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんきゅうきゅう1	海救急1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんげんえき1	海原液1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんたんく1	海タンク1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんきゅうきゅう2	海救急2	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんたもく1	海多目1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	《 東 出 張 所 》								
	呼 出 名 称	車 名	実 装 波 種						A V M
	かいなんひがしぼんぷ1	東ポンプ1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんひがしはんそう1	東搬送1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんひがしけいせき1	東軽積1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんひがしきゅうきゅう1	東救急1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	《 下 津 消 防 署 》								
	呼 出 名 称	車 名	実 装 波 種						A V M
	かいなんしもつぼんぷ1	下ポンプ1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつきゅうきゅう1	下救急1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつきゅうきゅう2	下救急2	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつけいせき1	下軽積1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつしえん1	下支援1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつかがく1	下化学1	活1	活2	主	統1	統2	統3	○
	かいなんしもつはんそう1	下搬送1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつたんく1	下タンク1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつこうほう1	下広報1	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	《 消 防 本 部 》								
	呼出名称	車 名	実 装 波 種						A V M
	かいなんこうほう1	海広報1（総務課）	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんこうほう2	海広報2（予防課）	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんこうほう3	海広報3（警防課）	活1	活2	主	統1	統2	統3	○

※活1→活動波1 活2→活動波2 主→主運用波 統1→統制波1 統2→統制波2 統3→統制波3

【消防通信施設 ②】

移動局 (携帯・可搬・卓上)	＜ 海 南 消 防 署 ＞									
	呼 出 名 称	種別	名 称	実 装 波 種						
	かいなん100	携帯	署長	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしき10	可搬	可搬指揮	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしき11	携帯	指揮者	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしき12	携帯	海南署	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんけいぼう11	携帯	第1小隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんけいぼう12	携帯	第2小隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんけいぼう13	携帯	(予備)	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんけいぼう14	携帯	(予備)	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんきゅうじょ11	携帯	救助隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんきゅうきゅう11	携帯	第1救急隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんきゅうきゅう12	携帯	第2救急隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんほんぶ1	卓上	非常用	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	＜ 東 出 張 所 ＞									
	呼 出 名 称	種別	名 称	実 装 波 種						
	かいなんひがし100	携帯	所長	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんひがししき10	可搬	可搬指揮	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんひがしけいぼう11	携帯	警防隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんひがしきゅうきゅう11	携帯	救急隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんひがしほんぶ1	卓上	非常用	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	＜ 下 津 消 防 署 ＞									
	呼 出 名 称	種別	名 称	実 装 波 種						
	かいなんしもつ100	携帯	署長	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつしき10	可搬	可搬指揮	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつけいぼう11	携帯	第1小隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつけいぼう12	携帯	第2小隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつけいぼう13	携帯	(予備)	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつきゅうきゅう11	携帯	救急隊	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんしもつほんぶ1	卓上	非常用	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	＜ 消 防 本 部 ＞									
	呼出名称	種別	名 称	実 装 波 種						
	かいなんほんぶしき10	可搬	本部指揮	活1	活2	主	統1	統2	統3	
	かいなんほんぶしき11	携帯	本部指揮	活1	活2	主	統1	統2	統3	

※活1→活動波1 活2→活動波2 主→主運用波 統1→統制波1 統2→統制波2 統3→統制波3

署活動系															
呼出名称		実 装 波 種							呼出名称		実 装 波 種				
本部	かいなんほんぶ601	市1	市2	団	県	防災	東出張所	かいなんひがし301	市1	市2	団	県	防災		
海南消防署	かいなん201	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし302	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん202	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし303	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん203	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし304	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん204	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし305	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん205	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし306	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん206	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし307	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん207	市1	市2	団	県	防災		かいなんひがし308	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん208	市1	市2	団	県	防災	下津消防署	かいなんしもつ501	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん209	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ502	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん210	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ503	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん211	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ504	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん212	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ505	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん213	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ506	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん214	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ507	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん215	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ508	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん216	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ509	市1	市2	団	県	防災		
	かいなん217	市1	市2	団	県	防災		かいなんしもつ510	市1	市2	団	県	防災		
						かいなんしもつ511		市1	市2	団	県	防災			

※市1→市波1 市2→市波2 団→消防団波 県→県内共通波 防災→防災相互波

【火災の部】



【火災概況】

1. 火災件数

令和4年中の消防自動車が出動した件数は18件で、その内火災件数は11件です。

火災種別でみると建物火災が6件と全体の約55%を占め、その他火災が3件、車両火災が1件、船舶火災が1件となっています。

2. 焼損棟数

焼損棟数は、8棟（全焼 3、半焼 1、部分焼 1、ぼや 3）となっています。

3. 建物焼損面積

建物焼損面積は219.0㎡で、前年の370.0㎡に比べて、151.0㎡減少しています。

4. 死傷者数

火災による負傷者 1名が発生しました。

5. 損害額

損害額は10,900千円で、前年の22,958千円に比べると12,058千円減少しています。また、火災1件あたりの平均損害額は991千円となっています。

6. 出火原因

出火原因は、テーブルタップ、焼却、ボイラー設備の高温ガス、たばこ、ヒートガン、揚げカス、硫化鉄、扇風機、線香が各1件、不明が2件となっています。

【前年との比較】

区 分 \ 年別比較		令和 3 年	令和 4 年	増 減
火 災 種 別	建 物	4	6	2
	林 野	1		-1
	車 両	2	1	-1
	船 舶		1	
	そ の 他	7	3	-4
	合 計	14	11	-3
焼 損 棟 数	全 焼	2	3	1
	半 焼	1	1	0
	部 分 焼	1	1	0
	ぼ や	3	3	0
焼 損 面 積	建物（㎡）	370.0	219	-151.0
	林野（a）	2.0		-2.0
損 害 額 （千円）		22,958	10,990	-11,968
り 災 世 帯		5	6	1
り 災 人 員		18	8	-10
死 傷 者	死 者			0
	負 傷 者	2	1	-1

【地区別発生状況】

区分 地区	火 災 種 別						焼 損 棟 数				焼 損 面 積		損 害 額 (千円)	り 災 世 帯	り 災 人 員	死 傷 者	
	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	建 物 (㎡)	林野 (a)				死 者	負 傷 者
黒 江																	
日 方	1					1				1			2	1	1		
内 海					2	2							169				
大 野	1					1				1							
冷 水																	
亀 川			1			1							80				
巽																	
中野上	1					1	1	1			40.0		5,881	1	1		
南野上						0											
北野上	2					2	2		1		179.0		4,243	3	5		
下 津	1					1				1			59	1	1		1
大 崎				1		1							556				
塩 津																	
加 茂					1	1											
仁 義																	
合 計	6		1	1	3	11	3	1	1	3	219.0		10,990	6	8		1

【月別発生状況】

区分 月別	火 災 種 別						焼 損 棟 数				焼 損 面 積		損 害 額 (千円)	り 災 世 帯	り 災 人 員	死 傷 者	
	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	建 物 (㎡)	林野 (a)				死 者	負 傷 者
1月																	
2月	1				1	2				1			2	1	1		
3月					1	1							100				
4月				1		1							556				
5月	1					1	1		1		81.0		3,248	3	5		
6月																	
7月	1		1			2	1	1			40.0		5,881	1	1		
8月	1				1	2				1			59				
9月	2					2	1			1	98.0		1,054	1	1		1
10月																	
11月																	
12月																	
合 計	6		1	1	3	11	3	1	1	3	219.0		10,900	6	8		1

【曜日別発生状況】

区分 曜日別	火 災 種 別						焼 損 棟 数				焼 損 面 積		損 害 額 (千円)	り 災 世 帯	り 災 人 員	死 傷 者	
	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	建 物 (㎡)	林野 (a)				死 者	負 傷 者
日曜日	2				1	3	2		1		179.0		4,343	3	5		
月曜日					1	1							69				
火曜日	1			1		2				1			558	1	1		
水曜日	1					1	1	1			40.0		5,881	1	1		
木曜日	1					1				1			59	1	1		1
金曜日			1			1							80				
土曜日	1				1	2				1							
不明																	
合 計	6		1	1	3	11	3	1	1	3	219.0		10,990	6	8		1

【時間別発生状況】

時間別 出火別	建 物	林 野	車 両	船 舶	その他	計	損 害 額	死 傷 者	
	火 災	火 災	火 災	火 災	火 災		(千 円)	死 者	負傷者
0 ~ 1									
1 ~ 2									
2 ~ 3									
3 ~ 4					1	1	100		
4 ~ 5									
5 ~ 6									
6 ~ 7									
7 ~ 8									
8 ~ 9									
9 ~ 10	1					1	3,248		
10 ~ 11					1	1	69		
11 ~ 12				1		1	556		
12 ~ 13									
13 ~ 14					1	1			
14 ~ 15	1					1	59		1
15 ~ 16	1					1	5,881		
16 ~ 17	1					1	2		
17 ~ 18									
18 ~ 19									
19 ~ 20									
20 ~ 21	2					2	995		
21 ~ 22									
22 ~ 23			1			1	80		
23 ~ 24									
不 明									
計	6		1	1	3	11	10,990		1

【覚知方法別出火件数】

火災別 覚知別	建 物 火 災	林 野 火 災	車 両 火 災	船 舶 火 災	そ の 他 火 災	合 計
火災報知 専用電話	3		1	1	1	6
加 入 電 話	2					2
警 察 電 話						
駆 付 通 報						
事 後 聞 知	1					1
そ の 他					2	2
合 計	6		1	1	3	11

【火元建物の用途別火災件数】

区分 月別	住 宅	共 同 住 宅 等	店 舗 付 住 宅	事 務 所 ・ 飲 食 店 等	店 舗 ・ 作 業 場	工 場 ・ 倉 庫	そ の 他	合 計
1月								
2月	1							1
3月								
4月								
5月	1							1
6月								
7月	1							1
8月					1			1
9月						1	1	2
10月								
11月								
12月								
合計	3				1	1	1	6

【原因別発生状況】

原 因 別	種 別	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	損 害 額 (千 円)
テーブルタップ		1					1	2
焼却						1	1	
ボイラー設備の高温のガス						1	1	100
たばこ		1					1	3,248
ヒートガン		1					1	5,881
揚げかす		1					1	
硫化鉄						1	1	69
扇風機		1					1	995
線香		1					1	59
不明				1	1		2	636
合 計		6		1	1	3	11	10,990

【気象別発生状況】

天 候	
晴	9
曇	2
雨	
不明	

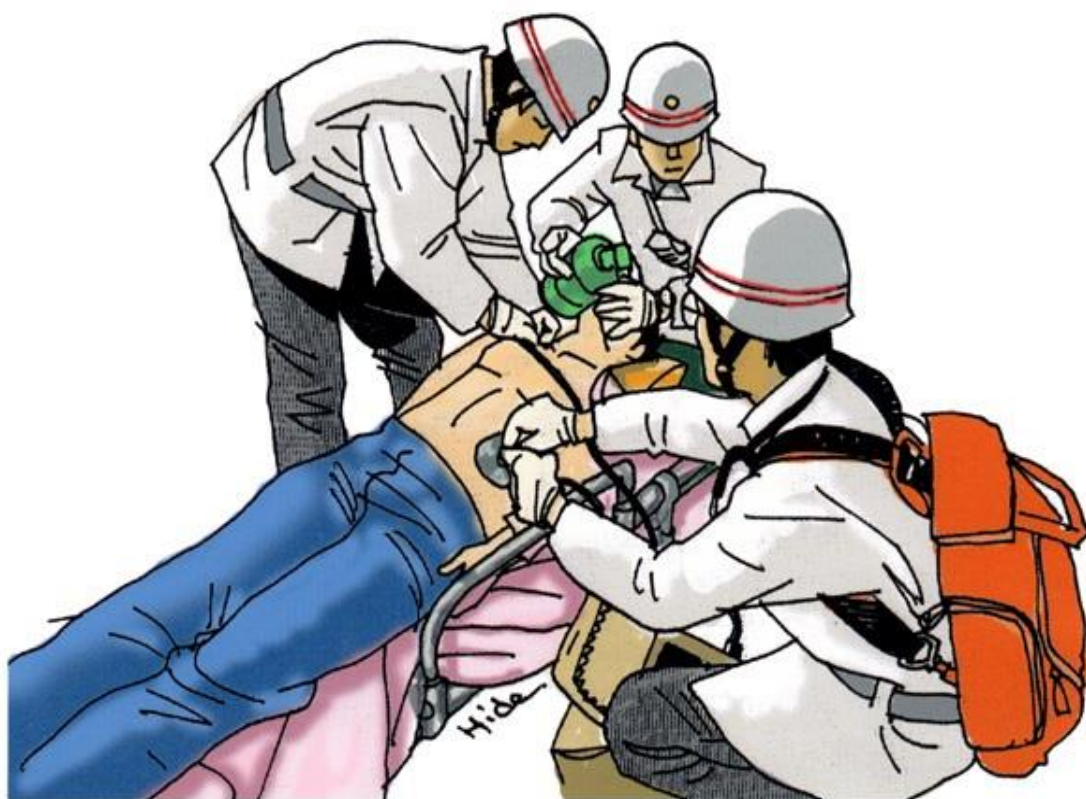
温 度	
10℃未満	1
10℃～20℃未満	2
20℃～30℃未満	6
30℃～40℃未満	2
不明	

風 向	
北	
東	
西	3
南	2
他の風向	6
不明	

湿 度	
50%未満	2
50%～60%未満	
60%～70%未満	2
70%以上	7
不明	

風 速	
1m未満	1
1m ～ 5m未満	10
5m ～10m未満	
不明	

【救急の部】



【救急概況】

1. 出場件数

令和4年中の出場件数は3,107件で、前年に比べ273件増加しています。

署所別に比較すると、海南消防署1,917件、下津消防署547件、東出張所643件となっています。

2. 搬送人員

救急車で搬送した人員は2,923人で、前年に比べ199人増加しました。

このことは、一日平均約8.0人を医療機関に搬送したことになり、海南市民の約16人に1人（令和4年12月末現在 人口47,910人）が救急車で搬送されたこととなります。

3. 事故種別

事故種別による出場状況は、急病が2,043件で最も多く、次いで一般負傷508件、その他328件、交通事故169件、労働災害22件、自損行為22件、運動競技8件、加害5件、火災1件、水難1件となっています。

4. 時間帯別出場状況

2時間ごとの時間帯別出場件数をみると10時から12時までの時間帯が431件と最も多く、4時から6時までの間が92件で最も少ない時間帯となっています。

5. 年齢別及び傷病程度別状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者2,088人で全体の約71%を占め、次いで成人667人、乳幼児103人、少年62人、新生児3人となっています。

また、傷病程度別にみると、軽症1,434人で最も多く全体の約49%を占め、次いで中等症1,165人、重症251人、死亡73人となっています。

【前年との比較】

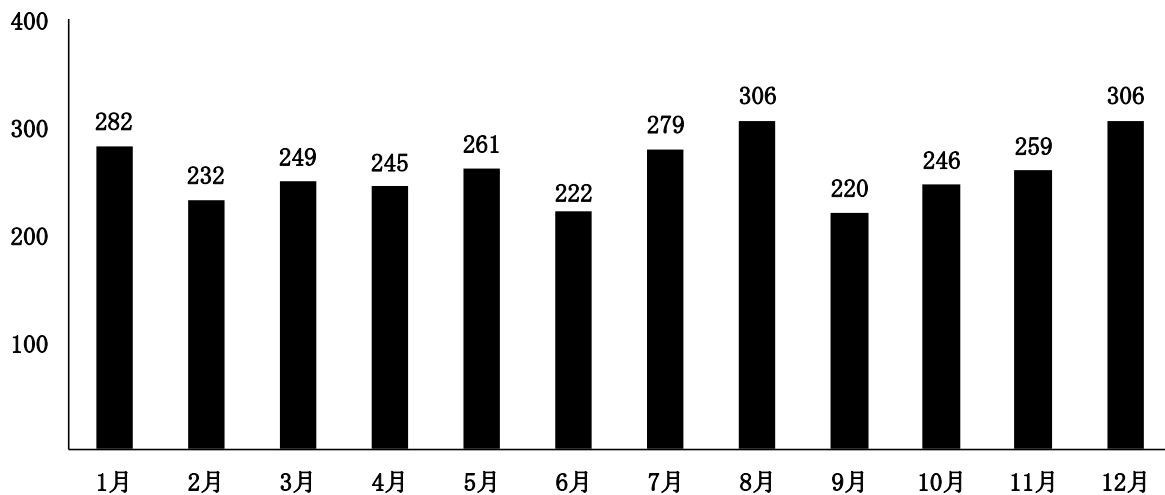
年別比較 区 分		令和 3 年	令和 4 年	増 減
救 急 件 数		2,834	3,107	273
搬 送 人 員		2,724	2,923	199
不 搬 送 件 数		131	201	70
事 故 種 別 救 急 件 数	火 災	1	1	
	自然災害			
	水 難	2	1	-1
	交通	154	169	15
	労働災害	23	22	-1
	運動競技	6	8	2
	一般負傷	501	508	7
	加害	1	5	4
	自損行為	12	22	10
	急病	1,796	2,043	247
	その他	338	328	-10
一日平均出場件数		7.8	8.5	0.7
一日平均搬送人員		7.4	8.0	0.6
現場到着平均所要時間（分）		7.7	8.0	0.3
病院収容平均所要時間（分）		36.5	39.7	3.2

【月別出場件数】

事故種別 月別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
1月				15	2		42	1	2	195	25	282
2月				4	1		31	1	1	170	24	232
3月				19	1		38		1	163	27	249
4月				9	4		35		4	159	34	245
5月				14	1	2	47		1	164	32	261
6月			1	18	2	1	28		2	148	22	222
7月				16			33		2	203	25	279
8月				10	2	1	46		2	222	23	306
9月	1			13	2		45	1		135	23	220
10月				18	3		55	1	3	139	27	246
11月				18	2	1	50	1	4	154	29	259
12月				15	2	3	58			191	37	306
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

【月別出場件数分布】

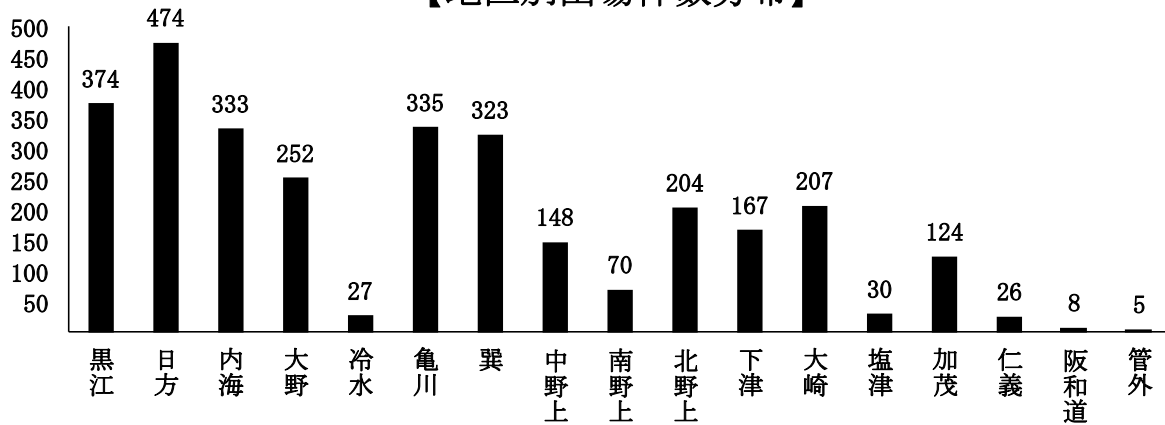


【地区別出場件数】

事故種別 地区別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
黒江				22	1	1	55	1	4	199	91	374
日方				19	5		63	1	5	245	136	474
内海			1	21	1		56	1	2	207	44	333
大野				11	1	4	34		1	184	17	252
冷水				2	2		6			17		27
亀川				22	3		58		5	238	9	335
巽				23	2	3	53	1	2	236	3	323
中野上				6			23		1	117	1	148
南野上				4			14			51	1	70
北野上				6	2		21	1		170	4	204
下津	1			6	1		30		1	124	4	167
大崎				6	4		49			138	10	207
塩津				4			9			17		30
加茂				8			31			77	8	124
仁義							6			20		26
阪和道				8								8
管外				1					1	3		5
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2,043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

【地区別出場件数分布】



【署・所別出場件数】

事故種別 署所別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
海南署			1	120	16	5	293	4	15	1,170	293	1,917
下津署	1			26	5		123		1	368	23	547
東出張所				23	1	3	92	1	6	505	12	643
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2,043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

【搬送先医療機関】

<管内医療機関>

医療機関名	人 員
海南医療センター	578
石本病院	127
恵友病院	332
辻秀輝整形外科	144
辻整形外科	82
その他（管内）	11
計	1,274

<管外医療機関>

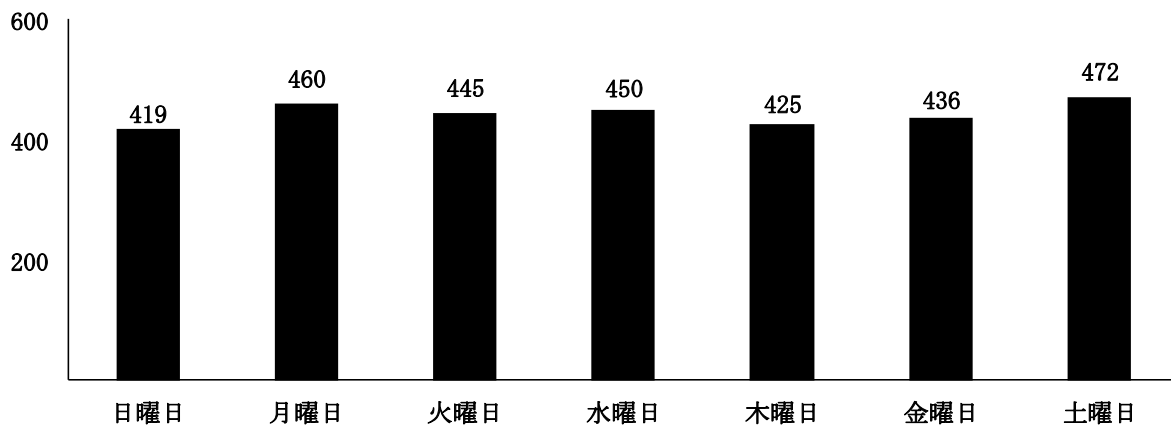
医療機関名	人 員
和歌山県立医大病院	899
日赤和歌山医療センター	357
誠佑記念病院	19
野上厚生病院	191
その他（県内）	183
その他（県外）	
計	1,649

【曜日別出場件数】

事故種別 曜日別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
日曜日				23		1	70	3	2	293	27	419
月曜日				25	3	1	58	1	4	296	72	460
火曜日				24		2	80		3	287	49	445
水曜日				29	7	1	76		3	285	49	450
木曜日	1			17	3	1	63		1	290	49	425
金曜日				25	6		78	1	6	278	42	436
土曜日			1	26	3	2	83		3	314	40	472
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2,043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

【曜日別出場件数分布】



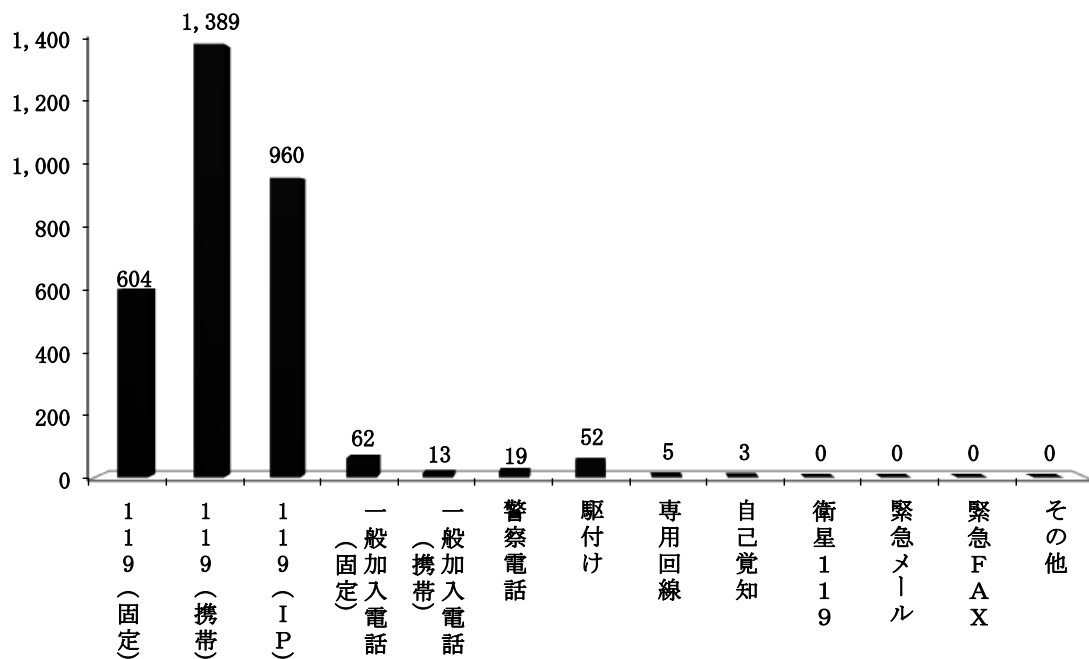
【覚知別出場件数】

覚知別 \ 事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
119（固定）				9			104		3	404	84	604
119（携帯）				134	13	8	250	3	17	935	29	1,389
119（I P）				6	8		130	2	1	613	200	960
一般加入電話（固定）				1			6			41	14	62
一般加入電話（携帯）							4			8	1	13
警察電話				9			4		1	5		19
駆付け	1			6	1		10			34		52
専用回線			1	2						2		5
自己覚知				2						1		3
衛星119												
緊急メール												
緊急FAX												
その他												
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2,043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

※ 専用回線は高速専用電話・企業専用電話をいう

【覚知別出場件数分布】

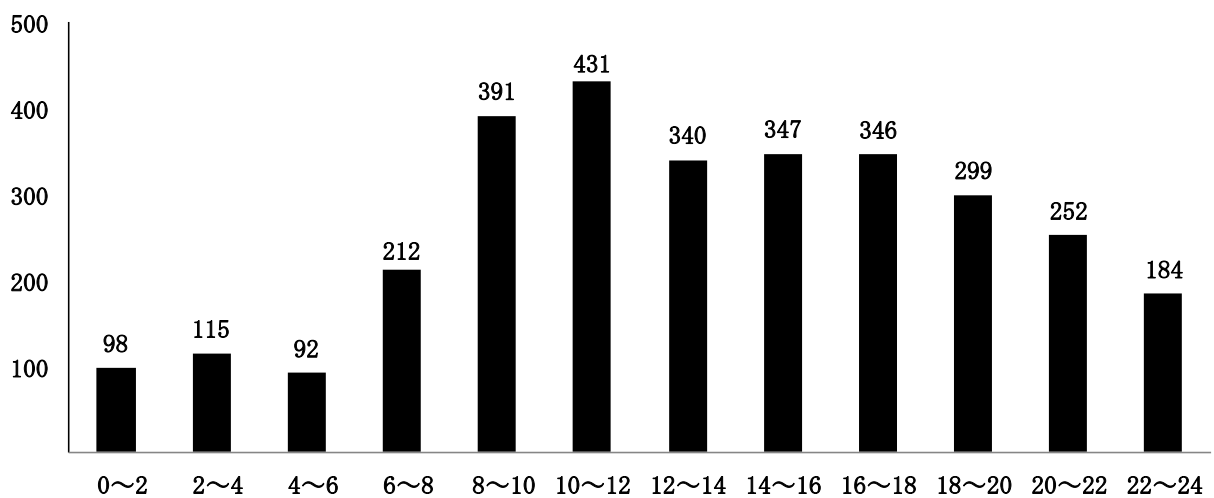


【時間別出場件数】

事故種別 時間別	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自損 行為	急 病	そ の 他	計
0～2				1			9			80	8	98
2～4				2	3		15	2	1	89	3	115
4～6				3			11		2	73	3	92
6～8				18	1		42		2	143	6	212
8～10				23	2		70		1	265	30	391
10～12			1	25	4		68		2	264	67	431
12～14				18	3	1	54		4	200	60	340
14～16				27	5		62		1	206	46	347
16～18	1			20	3	1	73		2	195	51	346
18～20				19	1	3	41	1	5	204	25	299
20～22				6		3	39	1	1	183	19	252
22～24				7			24	1	1	141	10	184
計	1		1	169	22	8	508	5	22	2043	328	3,107

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

【時間別出場件数分布】



【現場到着までの所要時間別出場件数】

時間 (分) 事故 種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計
急 病	31	169	1,369	466	8	2,043
交 通	5	31	86	39	8	169
一 般 負 傷	10	47	322	126	3	508
その他	5	191	156	35		387
計	51	438	1,933	666	19	3,107

【病院収容までの所要時間別搬送人員】

時間 (分) 事故 種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計
急 病	1	39	352	1,324	202	3	1,921
交 通		3	33	112	18		166
一 般 負 傷	1	10	99	321	46	3	480
その他		70	161	108	16	1	356
計	2	122	645	1,865	282	7	2,923

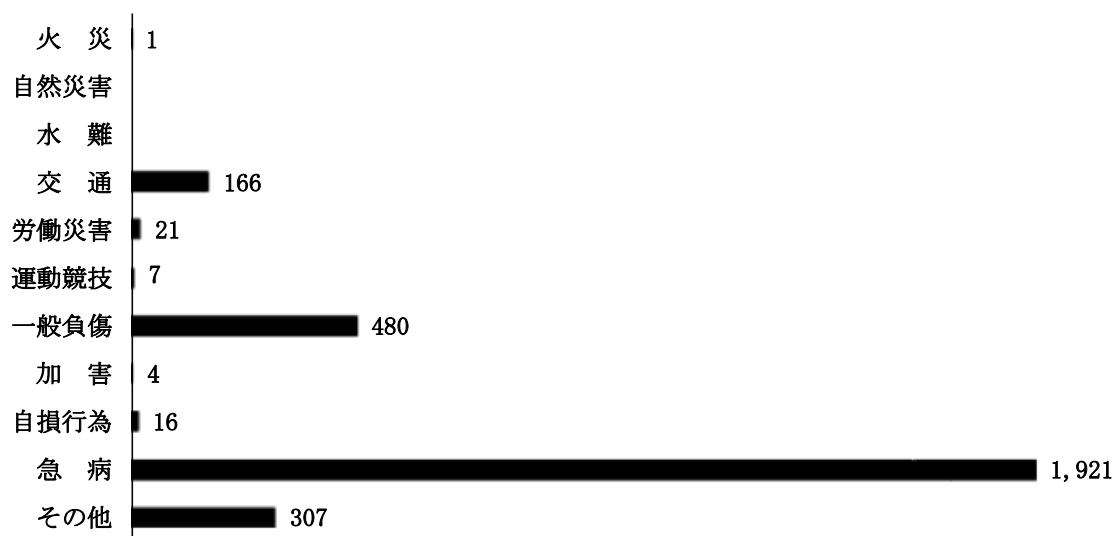
【事故種別傷病程度別搬送人員】

事故種別 程度別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡							11		4	56	2	73
重症				5	2		39			141	64	251
中等症				29	3	3	160	1	4	757	208	1,165
軽症	1			132	16	4	270	3	8	967	33	1,434
その他												
計	1			166	21	7	480	4	16	1,921	307	2,923

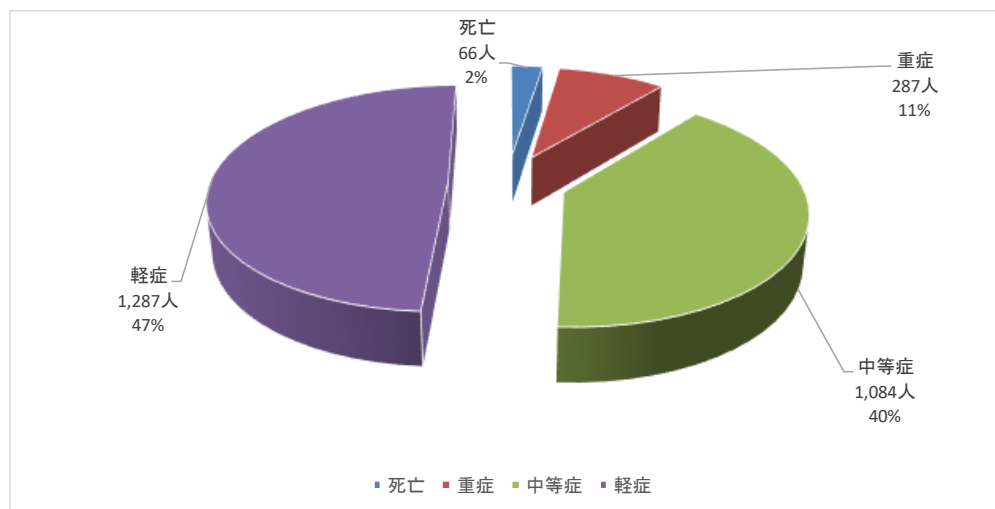
※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

※ 重症（3週間以上の入院）・中等症（3週間未満の入院）・軽症（入院を要しない）

【事故種別搬送人員分布】



【傷病程度別搬送人員分布】



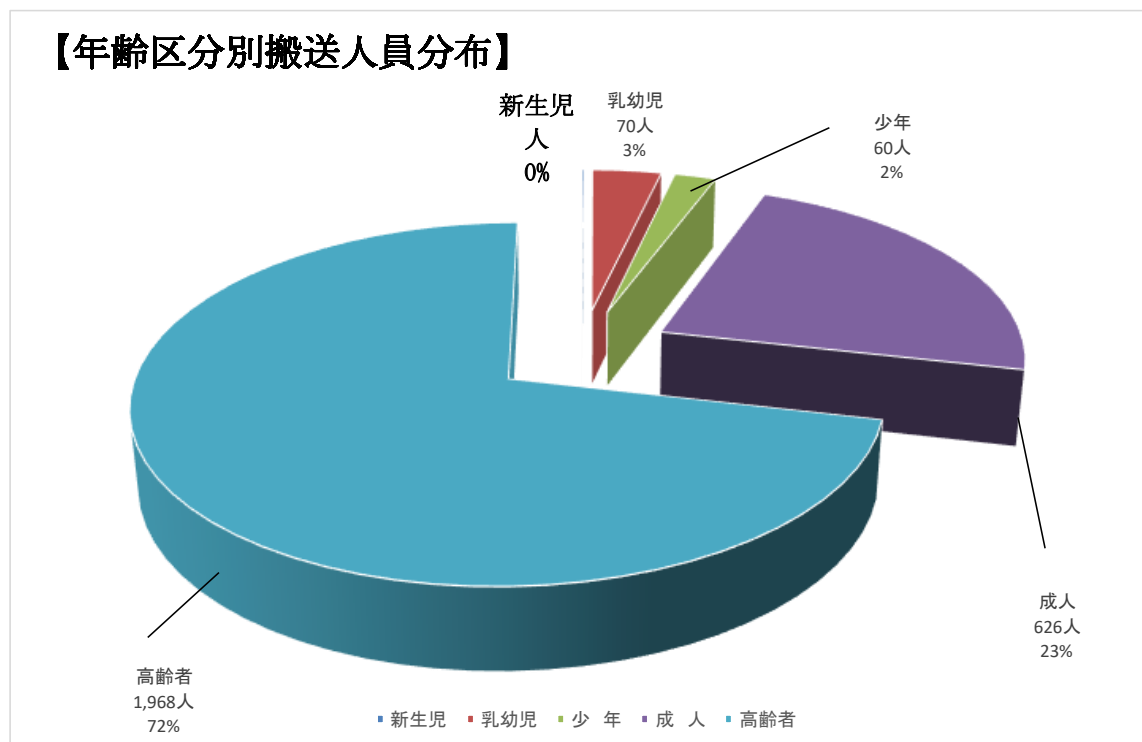
【事故種別年齢区分別搬送人員】

事故種別 区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
新生児										3		3
乳幼児				3			33			62	5	103
少年				14		5	10		1	31	1	62
成人				85	18	2	59	3	13	427	60	667
高齢者	1			64	3		378	1	2	1,398	241	2,088
計	1			166	21	7	480	4	16	1,921	307	2,923

※ 事故種別 その他には、転院搬送・医師搬送・資器材等輸送・その他が含まれる

- ※
- ・新生児（生後28日以内）
 - ・乳幼児（生後29日以上、満7歳未満）
 - ・少年（満7歳以上、満18歳未満）
 - ・成人（満18歳以上、満65歳未満）
 - ・高齢者（満65歳以上）

【年齢区分別搬送人員分布】



【救急隊員の行った処置件数】

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置等項目対象搬送人員		1,921	166	480	356	2,923
応 急 処 置 等 項 目	止 血	7	9	37	5	58
	被 覆	9	30	117	13	169
	固 定	15	83	59	13	170
	保 温	256	17	38	50	361
	酸素吸入	482	18	49	144	693
	人工呼吸	5		1		6
	胸骨圧迫					
	*うち自動					
	心肺蘇生	63	2	14	6	85
	*うち自動					
	*在宅療法継続（点滴）	1				1
	*在宅療法継続（外傷）					
	*在宅療法継続（その他）	57		2	11	70
	*ショックパンツ					
	*血圧測定	1,807	162	441	343	2,753
	*心音・呼吸音聴取	507	57	106	49	719
	*血中酸素飽和度測定	1,862	165	458	350	2,835
	*心電図測定	955	39	80	127	1,201
	気道確保	101	2	18	6	127
	*うち経鼻エアウェイ	5		1		6
	*うち喉頭鏡、鉗子等			3		3
	*うちリングマスク等	56	2	6	3	67
	*うち気管挿管	1		5		6
	*除細動	5				5
	*静脈路確保	33	1	4	1	39
	*薬剤投与	4		1		5
	*ブドウ糖投与	2				2
	*エピペン投与			1		1
	*血糖測定	21				21
	その他応急処置	1,905	165	474	352	2,896

- (注) 1 応急処置対象人員と処置内容の計は、1人につき複数の応急処置を行う為一致しない。
2 *印は、平成 3年より順次拡大された応急処置内容。
3 うち自動とは、心肺蘇生実施のうち自動式心マッサージ器を使用した件数。
4 うち経鼻エアウェイとは、気道確保実施のうち経鼻エアウェイを使用した件数。
5 うち喉頭鏡、鉗子等とは、気道確保実施のうち喉頭鏡、鉗子等を使用した件数。
6 うちリングマスク等とは、気道確保実施のうちリングマスク等を使用した件数。
7 うち気管挿管とは、気道確保実施のうち挿管チューブを使用した件数。

【救助の部】



【救助概況】

消防機関の行う人命の救助とは、火災・交通事故・水難事故・自然災害や機械による事故等から、人力や機械力等を用いてその危険を排除し、安全な場所に救助する活動をいう。

1. 出動件数

令和4年中の出動件数は37件です。前年度に比べ1件減少しています。

2. 活動件数及び活動人員

出動件数37件の内、23件が救助隊員の活動した件数となっています。

活動人員については延べ177名となっています。

3. 事故種別

事故種別による出動状況は、交通事故16件、建物等による事故10件、その他の事故 8件、水難事故 2件、機械による事故 1件となっています。

4. 救助救出人員

救助救出人員は、建物等による事故 8名、交通事故 6名、その他の事故 5名、水難事故 2名、機械による事故 1名となっています。

【前年との比較】

年別比較 区 分		令和 3 年	令和 4 年	増 減
出 動 件 数		38	37	-1
活 動 件 数		24	23	-1
救 助 活 動 人 員		175	177	2
救 助 救 出 人 員		24	22	-2
事故種別別救助出動件数	火 災			
	交 通 事 故	14	16	2
	水 難 事 故	1	2	1
	風水害等自然災害			
	機械による事故		1	1
	建物等による事故	13	10	-3
	ガス及び酸欠事故			
	破 裂 事 故			
	その他の事故	10	8	-2

救助活動人員とは、実際に救助活動を行った人員をいう。

救助救出人員とは、救助隊員が救出した人員をいう。

【月別・地区別出動件数】

地区区分 月別	黒江	日方	内海	大野	冷水	亀川	巽	中野上	南野上	北野上	下津	大崎	塩津	加茂	仁義	阪和道	管外	合計
1月	1							1				1				1		4
2月		1																1
3月							2							1		1		4
4月		1				1						1					1	4
5月		1		1					1									3
6月			1	1				1		1								4
7月						1												1
8月	1						1						1	1				4
9月	1		2				1				1					1		6
10月	1																	1
11月	1													1				2
12月	2												1					3
合 計	7	3	3	2		2	4	2	1	1	1	2	2	3		3	1	37

【消防団の部】



「特別表彰 まとい」

昭和54年度から「特別表彰まとい」の表彰制度が創設され、以降、全国の消防団の中から毎年厳しい選考基準を満たした優良消防団10団に対し授与されるもので、消防団にとっては最高の栄誉とされています。

海南市消防団は、永年に亘る消防団活動が顕著であることから、その功績が認められ、全国2,552消防団の中から、平成19年2月8日、日本消防会館に於いて授与されました。

【旧海南市消防団の歩み】

明治	27 年	5 月	黒江・日方・内海各町と大野村に消防組を設置する。
昭和	9 年	5 月	黒江・日方・内海各町と大野村の合併により海南市が誕生し、ポンプ（ガソリンポンプ、蒸気ポンプ、手押しポンプ）合わせて 10 台と消防組員 250 名により組織され海南市消防組として発足する。
昭和	14 年	4 月	消防組から警防団に改名する。
昭和	22 年	4 月	警防団から消防団に改名し現在に至る。
昭和	23 年	5 月	黒江・日方・内海・大野各分団へ冷水分団が加わり 5 分団となる。
昭和	24 年	3 月	消防団常備部を廃止、1 消防本部・1 消防署・1 消防団となる。
昭和	30 年	4 月	亀川・巽・中野上・南野上・北野上各村の合併により消防団においては 5 分団加えられ、10 分団 713 名となりポンプ 38 台（手引動力ポンプ 11 台 小型動力ポンプ 26 台・蒸気ポンプ 1 台）となり、消防力が強化された。
昭和	31 年	4 月	消防団員の定員 713 名から 503 名に改正する。
平成	16 年	4 月	1 団本部 ・ 10 分団 ・ 定員数 503 名（実数 452 名）で組織 消防装備（ポンプ車 5 台・小型動力ポンプ付積載車 24 台〔軽積載車 7 台含む〕 小型動力ポンプ 1 台）を配備

【旧下津町消防団の歩み】

慶応	2 年		加茂村市坪消防組を設置する。
大正	13 年		浜中村消防組設置
昭和	7 年		大崎村公設消防組設置
昭和	7 年		仁義村公設消防組設置
昭和	8 年	6 月	塩津村公設消防組設置
昭和	14 年	4 月	旧下津町、大崎村、塩津村、加茂村、仁義村に警防団設置
昭和	22 年	5 月	警防団から消防団に改名し現在に至る。
昭和	30 年	2 月	旧下津町・大崎村・塩津村・加茂村・仁義村の合併により下津町となる。
昭和	30 年	5 月	下津町消防団に改名される。
平成	16 年	4 月	1 団本部 ・ 5 分団 ・ 定員数 280 名（実数 280 名）で組織 消防装備（ポンプ車 7 台・小型動力ポンプ付積載車 16 台〔軽積載車 14 台 普通積載車 2 台〕 小型動力ポンプ 6 台）を配備

【海南市消防団の歩み】

平成 17 年	4 月	海南市・下津町の市町合併により消防団においては、1 団本部・15 分団 定数 733 名（実数 731 名）の組織となる。 消防装備（ポンプ車 12 台・小型動力ポンプ付積載車 40 台〔軽積載車 21 台含む〕小型動力ポンプ 7 台）を配備
	12 月	小型動力ポンプ付軽積載車を南野上分団上谷班に更新配備 小型動力ポンプ付積載車を大野分団に更新配備
平成 19 年	1 月	小型動力ポンプ付積載車を北野上分団孟子班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を南野上分団赤沼海老谷班に更新配備
	2 月	日消特別表彰「まとい」授彰式 日本消防会館
平成 21 年	3 月	中野上分団第 2 班 器具置場完成 仁義分団引尾班 器具置場完成
平成 22 年	3 月	日方分団 器具置場完成 南野上分団野上新 器具置場完成
平成 23 年	3 月	仁義分団曾根田 器具置場完成 普通積載車を下津分団脇ノ浜班に更新配置 普通積載車を下津分団新田班に更新配置 普通積載車を下津分団西ノ浦班に更新配置
平成 24 年	2 月	消防ポンプ自動車を大崎分団三郷班に更新配備
	3 月	北野上分団七山第 2 器具置場完成 南野上分団ひや水 器具置場完成 小型動力ポンプ付軽積載車を巽分団東畑班に更新配備
平成 25 年	3 月	消防ポンプ自動車を加茂分団橋本班に更新配備 小型動力ポンプ付普通積載車を仁義分団曾根田班に更新配備
平成 26 年	1 月	消防ポンプ自動車を下津分団上班に更新配備
	3 月	下津分団新田 器具置場完成
	12 月	小型動力ポンプ付軽積載車を中野上分団溝の口班に更新配備
平成 27 年	2 月	消防ポンプ自動車（総務省消防庁より無償貸与）を亀川分団且来班に配備
平成 30 年	1 月	小型動力ポンプ付軽積載車を日方分団に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を内海分団に更新配備
	3 月	北野上分団原野 器具置場完成
	12 月	小型動力ポンプを亀川分団岡田班に更新配備 小型動力ポンプを加茂分団中班に更新配備
平成 31 年	1 月	小型動力ポンプ付軽積載車を巽分団重根班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を中野上分団沖野々班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を南野上分団野上新班・次ヶ谷班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を北野上分団原野班・七山 2 班に更新配備
	3 月	亀川分団且来 器具置場完成

令和	元 年	8 月	小型動力ポンプを亀川分団多田班に更新配備 小型動力ポンプを中野上分団野上中班に更新配備 小型動力ポンプを南野上分団九品寺班に更新配備 小型動力ポンプを北野上分団高津班に更新配備
		12 月	消防ポンプ自動車を黒江分団に更新配備 消防ポンプ自動車を巽分団阪井班に更新配備
令和	2 年	2 月	亀川分団岡田 器具置場完成 巽分団阪井 器具置場完成
		3 月	黒江分団 器具置場完成
令和	2 年	10 月	消防ポンプ自動車を冷水分団に更新配備 消防ポンプ自動車を北野上分団七山 1 班に更新配備
		11 月	小型動力ポンプを亀川分団小野田班に更新配備 小型動力ポンプを南野上分団赤沼・海老谷班に更新配備 小型動力ポンプを北野上分団孟子班、野尻・別院班に更新配備
令和	3 年	3 月	中野上分団沖野々 器具置場完成 南野上分団九品寺 器具置場完成
令和	4 年	3 月	内海分団 器具置場完成
令和	5 年	3 月	亀川分団小野田 器具置場完成 小型動力ポンプを巽分団扱沢班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を大崎分団大崎 6 班に更新配備 小型動力ポンプ付軽積載車を塩津分団に更新配備

【海南市・消防団表彰歴】

平成 18 年	日本消防協会長	特別表彰（まとい）
平成 23 年	和歌山県知事	表彰旗
平成 24 年	日本消防協会長	表彰旗
平成 27 年	日本消防協会長	竿頭綬
平成 29 年	和歌山県知事	竿頭綬
平成 31 年	和歌山県消防協会総裁	表彰旗

【旧海南市・消防団表彰歴】

昭和 30 年	和歌山県知事	竿頭綬
昭和 31 年	日本消防協会長	竿頭綬
昭和 32 年	国家消防本部長	竿頭綬
昭和 33 年	日本消防協会長	表彰旗
昭和 33 年	和歌山県知事	竿頭綬
昭和 36 年	消防庁長官	表彰旗
昭和 61 年	日本消防協会長	竿頭綬
平成 4 年	日本消防協会長	竿頭綬
平成 7 年	和歌山県消防協会	表彰旗

【旧下津町・消防団表彰歴】

昭和 27 年	日本消防協会長	竿頭綬
昭和 28 年	日本消防協会長	竿頭綬
昭和 31 年	日本消防協会長	表彰旗
昭和 33 年	和歌山県消防協会	竿頭綬
昭和 33 年	和歌山県消防協会	竿頭綬
昭和 38 年	消防庁長官	表彰旗
昭和 38 年	和歌山県消防協会	竿頭綬
昭和 44 年	和歌山県消防協会	竿頭綬
昭和 58 年	日本消防協会長	竿頭綬
昭和 62 年	日本消防協会長	特別表彰（まとい）
平成 2 年	和歌山県消防協会	竿頭綬

【海南市・消防操法大会成績】

令和 4 年	和歌山県消防操法大会	
	ポンプ車操法の部	第 3 位

【旧海南市・消防操法大会成績】

昭和 51 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	小型ポンプ操法の部	第 3 位
昭和 63 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	第 3 位
平成 4 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	第 3 位
平成 6 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	優 勝
平成 6 年	全国消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	出 場

【旧下津町・消防操法大会成績】

昭和 47 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	小型ポンプ操法の部	優 勝
昭和 47 年	全国消防ポンプ操法大会	
	小型ポンプ操法の部	出 場
昭和 49 年	和歌山県消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	優 勝
昭和 49 年	全国消防ポンプ操法大会	
	ポンプ車操法の部	出 場

【海南市歴代消防団長】

在 任 期 間	氏 名
平成 17 年 4 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日	山 田 満 秀
平成 19 年 9 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日	宮 崎 雅 夫
平成 23 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 16 日	藤 本 敏 弘
平成 27 年 9 月 1 月～	岡 室 孝 明

【旧海南市・歴代消防団長】

在 任 期 間	氏 名
昭和 22 年 9 月 15 日～昭和 28 年 9 月 14 日 (昭和24年3月7日～昭和26年8月31日消防長と兼務)	川 端 百 三
昭和 28 年 9 月 15 日～昭和 32 年 9 月 14 日	藤 田 賢 一
昭和 32 年 9 月 15 日～昭和 42 年 8 月 31 日	川 口 為 助
昭和 42 年 9 月 1 日～平成 3 年 8 月 31 日	森 下 庸 三
平成 3 年 9 月 1 日～平成 4 年 9 月 30 日	北 口 孝 一
平成 4 年 10 月 1 日～平成 7 年 8 月 31 日	立 石 量 昭
平成 7 年 9 月 1 日～平成 8 年 6 月 12 日	竹 中 昇
平成 8 年 6 月 13 日～平成 17 年 3 月 31 日	山 田 満 秀

【旧下津町・歴代消防団長】

在 任 期 間	氏 名
昭和 30 年 2 月 1 日～昭和 32 年 2 月 28 日	宮 本 徳 門
昭和 32 年 3 月 1 日～昭和 46 年 3 月 31 日 (昭和34年12月23日～昭和46年3月31日消防長と兼務)	土 田 幸一郎
昭和 46 年 4 月 1 日～昭和 53 年 4 月 30 日	寺 本 甚 八
昭和 53 年 5 月 1 日～昭和 59 年 5 月 29 日	島 本 浩
昭和 59 年 6 月 1 日～平成 8 年 11 月 30 日	橋 爪 成 記
平成 8 年 12 月 1 日～平成 14 年 4 月 14 日	森 田 典 雄
平成 14 年 4 月 15 日～平成 17 年 3 月 31 日	橋 爪 健 二

【消防団の組織】

令和5年4月1日 現在

<div>団本部</div> <div>団 長 (1 名)</div> <div>副団長 (5 名)</div> <div>条例定数 (733 名)</div> <div>実 員 (696 名)</div>	黒江分団 (24 名)			第1班
				第2班
				第3班
	日方分団 (21 名)			第1班
				第2班
	内海分団 (23 名)			第1班
				第2班
	大野分団 (20 名)			第1班
				第2班
	冷水分団 (23 名)			第1班
				第2班
	亀川分団 (56 名)			第1班
				第2班
				第3班
				第4班
	巽分団 (77 名)			第1班
				第2班
				第3班
				第4班
				第5班
	中野上分団 (39 名)			第1班
				第2班
				第3班
	南野上分団 (54 名)			第1・2班
				第3班
				第4班
				第5班
				第6班
	北野上分団 (79 名)			第1・2班
				第3班
				第4班
				第5班
				第6班
				第7・8班
	下津分団 (80 名)			鯉川班
				西ノ浦班
				新田班
				脇ノ浜班
				上班
				小原班
				小畑班
	大崎分団 (73 名)			三郷班
				丸田班
				戸坂班
				方北班
				方南班
				大崎第6班
				大崎第7班
	加茂分団 (71 名)			市坪班
				大窪班
				橋本班
				沓掛班
				小松原班
				中班
				青枝班
				下小梅班
	仁義分団 (28 名)			曾根田班
				引尾班
				興班
	塩津分団 (22 名)			第1班
				第2班

【消防団員報酬】

令和5年4月1日 現在

年額報酬

区 分	支給単価	金 額
団 長	年 額	81,000円
副 団 長	年 額	63,000円
分 団 長	年 額	43,000円
副 分 団 長	年 額	36,000円
部 長	年 額	31,000円
班 長	年 額	28,000円
団 員	年 額	26,000円

出動報酬

区 分	支給単位	金額	摘 要
災 害 及 び 警 戒	1 回 (1時間以内)	2,000円	1時間増毎1,000円加算
訓 練	1 回	3,500円	
車 両 の 点 検 備 施 設 の 整 備	1 回	400円	消防ポンプ自動車
	1 回	300円	小型ポンプ自動車
	1 回	100円	小型動力ポンプ
	1 回	300円	消防器具置場
	1 回	400円	消防水利

【消防団員地区別人員及び器具等配置状況】

令和5年4月1日 現在

所 属	団本部	黒江	日方	内海	大野	冷水	亀川	巽	中野上	南野上	北野上
実 員	6	24	21	23	20	23	56	77	39	54	79
消防ポンプ 自 動 車		1				1	1	1			1
小型動力ポンプ 付 積 載 車			1	1	1		3	4	3	5	5
小 型 動 力 ポ ン プ		1									

所 属	下津	大崎	加茂	仁義	塩津	計
実 員	80	73	71	28	22	696
消防ポンプ 自 動 車	1	1	1			8
小型動力ポンプ 付 積 載 車	6	3	7	3	1	43
小 型 動 力 ポ ン プ		4			1	6

【年齢別・階級別消防団員数】

令和5年4月1日 現在

階級 年齢	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
18～20								
21～25							10	10
26～30							10	10
31～35						2	31	33
36～40					1	7	77	85
41～45					2	9	83	94
46～50			5	1	3	16	122	147
51～55			1	3	3	15	100	122
56～60	1	1	2	7	7	9	53	80
61以上		4	7	4	6	4	90	115
合 計	1	5	15	15	22	62	576	696

平均年齢 49.6歳

【勤続年数別・階級別消防団員数】

令和5年4月1日 現在

階級 年数	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
5年未満						1	110	111
5年以上 10年未満			1	1		14	106	122
10年以上 15年未満			1		5	16	104	126
15年以上 20年未満				2	4	12	86	104
20年以上 25年未満			4	3	4	12	59	82
25年以上 30年未満		1	4	5	6	3	48	67
30年以上	1	4	5	4	3	4	63	84
合 計	1	5	15	15	22	62	576	696

【消防団の施設 ①】

令和5年4月1日 現在

分 団		用 途	所 在 地	構 造	器具置場面積 (㎡)	完成年月
					警鐘台の高さ (m)	
黒江分団		器具置場	黒江695番地	鉄 骨 2 階	52.00	R 2. 3
		器具置場	黒江477番地3	木 造	4.60	H 8. 5
日方分団		器具置場	山崎町二丁目2番地11	鉄 骨 2 階	48.00	H22. 3
内海分団		器具置場	名高338番地5	鉄 骨 2 階	89.43	R 4. 3
大野分団		器具置場	大野中600番地11	鉄 骨 2 階	51.00	S59. 2
冷水分団		器具置場	冷水483番地7	鉄 骨 2 階	72.00	S50. 3
		警 鐘 台	冷水433番地1	鉄 骨 造	5.43	S37.11
亀川分団	1班	器具置場	且来272番地	鉄 骨 2 階	52.00	H31. 3
	2班	器具置場	岡田772番地6	鉄 骨 2 階	48.00	R 2. 2
	3班	器具置場	多田33番地2	鉄 骨 2 階	50.99	H 7. 3
	4班	器具置場	小野田865番地2	鉄 骨 2 階	35.00	R 5. 3
巽分団	1班	器具置場	阪井757番地7	鉄 骨 2 階	48.00	R 2. 2
	2班	器具置場	重根440番地5	鉄 骨 2 階	48.00	H17. 2
		警 鐘 台	重根1210番地1	鉄 骨 造	12.05	S49. 3
		サイレン柱	重根農村婦人の家	鋼 管 ポール	6.60	H 6.12
	3班	器具置場	東畑477番地	鉄 骨 2 階	44.77	S62. 3
		警 鐘 台	東畑344番地	鉄 骨 造	11.00	S47. 8
		警 鐘 台	東畑774番地	ステンレス 製	4.50	H 1. 2
	4班	器具置場	別所778番地9	鉄 骨 2 階	50.99	H 8. 2
	5班	器具置場	扱沢386番地	ブロック造平屋	16.33	S52. 8
		警 鐘 台		鉄 骨 造	8.75	S43.11

【消防団の施設 ②】

令和5年4月1日 現在

分 団		用 途	所 在 地	構 造	器具置場面積(㎡)	完成年月
					警鐘台の高さ(m)	
中野上分団	1班	器具置場	溝ノ口45番地13	ブロック造2階木造	27.30	S40. 10
		警 鐘 台		鉄 骨 造	10.45	S33. 10
	2班	器具置場	野上中101番地1地先	鉄 骨 2 階	48.00	H21. 3
	3班	器具置場	沖野々467番地9	鉄 骨 2 階	48.00	R 3. 3
南野上分団	1・2班	器具置場	野上新734番地3	鉄 骨 2 階	48.00	H22. 3
	3班	器具置場	九品寺463番地5	鉄 骨 2 階	48.00	R 3. 3
	4班	器具置場	次ヶ谷173番地	ブロック造2階木造	47.13	S52. 9
		警 鐘 台		鉄 骨 造	12.50	S47. 6
	5班	器具置場	ひや水595番地4	鉄 骨 1 階	39.20	H24. 3
	6班	器具置場	海老谷146番地3	鉄 骨 2 階	51.00	S58. 3
		警 鐘 台	海老谷157番地2	鉄 骨 造	11.00	S48. 8
北野上分団	1・2班	器具置場	原野326番地2	鉄 骨 1 階	44.00	H30. 3
	3班	器具置場	七山82番地5	鉄 骨 2 階	48.00	S48. 9
		警 鐘 台		鉄 骨 造	12.15	S45. 1
	4班	器具置場	七山936番地1	鉄 骨 1 階	37.30	H24. 3
	5班	器具置場	高津628番地	鉄 骨 2 階	48.00	S50. 11
		警 鐘 台		鉄 骨 造	12.05	S48. 9
	6班	器具置場	孟子554番地	鉄 骨 2 階	51.00	S58. 3
	7・8班	器具置場	野尻10番地2	鉄 骨 2 階	49.40	S56. 10
		警 鐘 台		鉄 骨 造	12.00	H 3. 1

【消防団の施設 ③】

令和5年4月1日 現在

分 団		用 途	所 在 地	構 造	器具置場 面積(㎡)	完成年月
下津分団	鰐川班	器具置場	鰐川191番地4	鉄筋コンクリート2階	38.40	S61. 12
	西の浦班	器具置場	下津2095番地4	ブ ロ ッ ク 造 1 階	29.40	
	新田班	器具置場	下津1293番地5	鉄 骨 1 階	47.40	H26. 3
	脇の浜班	器具置場	下津27番地14	鉄筋コンクリート2階	55.22	S61. 3
	小原班	器具置場	小原1440番地1	鉄筋コンクリート2階	38.40	S61. 12
	上班	器具置場	上231番地4	鉄筋コンクリート2階	55.22	S61. 3
	小畑班	器具置場	小畑449番地6	鉄筋コンクリート2階	38.40	S61. 12
大崎分団	三郷班	器具置場	丸田238番地10	鉄筋コンクリート2階	54.02	S62. 3
	戸坂班	器具置場	丸田1120番地45	鉄筋コンクリート2階	55.22	S61. 3
	戸坂班	器具置場	丸田1132番地4	ブ ロ ッ ク 造 1 階	4.62	S58. 12
	方班	器具置場	方385番地7	鉄筋コンクリート2階	54.02	S62. 12
	大崎班	器具置場	大崎951番地12	鉄筋コンクリート2階	55.22	S61. 3
加茂分団	大窪班	器具置場	大窪16番地25	鉄筋コンクリート1階	17.92	S61. 12
	市坪班	器具置場	市坪270番地	鉄筋コンクリート1階	17.92	S61. 12
	橋本班	器具置場	橋本968番地4	鉄筋コンクリート2階	55.22	S61. 3
	小松原班	器具置場	小松原30番地1	鉄筋コンクリート2階	54.02	S62. 12
	青枝班	器具置場	青枝411番地1	鉄筋コンクリート1階	17.92	S61. 12
	中班	器具置場	中378番地2地先	鉄筋コンクリート1階	40.70	H 3. 2
	下・小・梅班	器具置場	小南37番地13	鉄筋コンクリート2階	54.02	S62. 3
	杓掛班	器具置場	杓掛420番地1	鉄 骨 1 階	13.20	
仁義分団	興班	器具置場	興52番地	鉄 骨 1 階	14.40	
	引尾班	器具置場	引尾28番地3	鉄 骨 2 階	48.00	H21. 3
	曾根田班	器具置場	曾根田993番地5	鉄 骨 1 階	40.00	H23. 3
塩津分団	塩津班	器具置場	塩津123番地10	ブ ロ ッ ク 造 1 階	35.36	S59. 2

【消防団車両配備状況 ①】

令和5年4月1日 現在

分団名	登録番号	登録年	事業別	車名	型式	排気量	小型動力	級別 購入年月	事業別
黒江	和歌山800 す 2104	R 1. 12	起債	トヨタ	CD- I 型 消 防 車	2,980			
	北ノ丁						ラビット	B-3 級 H12. 11	防災
日方	和歌山880 あ 1965	H30. 1	石油 起債	スズキ	積 載 車	650	シバウラ	B-3 級 H30. 1	石油
内海	和歌山880 あ 1966	H30. 1	石油 起債	スズキ	積 載 車	650	シバウラ	B-3 級 H30. 1	石油
大野	和歌山800 さ 5364	H17. 12	石油	マツダ	積 載 車	1,780	シバウラ	B-3 級 H18. 12	石油
冷水	和歌山800 す 2515	R 2. 10	起債	トヨタ	CD- I 型 消 防 車	2,980			
亀川	1班	和歌山800 す 89	H27. 2	貸付	日野	CD- I 型 消 防 車	4,000		
	2班	和歌山800 さ 1603	H13. 1	防災	日産	積 載 車	1,780	トーハツ	B-3 級 H30. 12
	3班	和歌山800 さ 2139	H13. 9	防災	マツダ	積 載 車	1,780	シバウラ	B-2 級 R 1. 8
	4班	和歌山800 さ 726	H12. 1	国補	日産	積 載 車	1,780	トーハツ	B-2 級 R 2. 11
巽	1班	和歌山800 す 2105	R 1. 12	起債	トヨタ	CD- I 型 消 防 車	2,980		
	2班	和歌山880 あ 2085	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1
	3班	和歌山880 あ 1047	H24. 3	石油 起債	三菱	積 載 車	650	シバウラ	B-3 級 H24. 3
	4班	和歌山 80 あ 1424	H 9. 2	防災	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H13. 10
	5班	和歌山 80 あ 2296	H15. 1	市単	スバル	積 載 車	650	トーハツ	B-2 級 R 5. 3

市単:単独事業 石油:石油備蓄補助 防災:防災まりづくり事業 国補:国庫補助 県補:県費補助

コミュ:コミュニティ助成事業 起債:緊急防災減災事業債等の地方債

【消防団車両配備状況 ②】

令和5年4月1日 現在

分団名		登録番号	登録年	事業別	車名	型式	排気量	小型動力	級別 購入年月	事業別
中野上	1班	和歌山880 あ 1489	H26. 12	石油 起債	ダイハツ	積 載 車	650	シバウラ	B-3 級 H26. 12	石油
	2班	和歌山 80 あ 2573	H16. 12	石油	ホンダ	積 載 車	650	シバウラ	B-2 級 R 1. 8	起債
	3班	和歌山880 あ 2084	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1	起債
南野上	1・2班	和歌山880 あ 2077	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1	起債
	3班	和歌山800 さ 725	H12. 1	防災	日産	積 載 車	1,780	シバウラ	B-2 級 R 1. 8	起債
	4班	和歌山880 あ 2078	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1	起債
	5班	和歌山880 あ 110	H17. 12	石油	マツダ	積 載 車	650	シバウラ	B-3 級 H18. 12	石油
	6班	和歌山880 あ 262	H19. 1	石油	日産	積 載 車	650	トーハツ	B-2 級 R 2. 11	起債
北野上	1・2班	和歌山880 あ 2083	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1	起債
	3班	和歌山800 す 2514	R 2. 10	起債	トヨタ	CD- I 型 消 防 車	2,980			
	4班	和歌山880 あ 2082	H30. 12	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H31. 1	起債
	5班	和歌山800 さ 1602	H13. 1	防災	日産	積 載 車	1,780	シバウラ	B-2 級 R 1. 8	起債
	6班	和歌山800 さ 6196	H19. 1	石油	マツダ	積 載 車	1,780	トーハツ	B-2 級 R 2. 11	起債
	7・8班	和歌山800 さ 2084	H13. 8	防災	マツダ	積 載 車	1,780	トーハツ	B-2 級 R 2. 11	起債

市単:単独事業 石油:石油備蓄補助 防災:防災まりづくり事業 国補:国庫補助 県補:県費補助

コミュ:コミュニティ助成事業 起債:緊急防災減災事業債等の地方債

【消防団車両配備状況 ③】

令和5年4月1日 現在

分団名		登録番号	登録年	事業別	車名	型式	排気量	小型動力	級別 購入年月	事業別
下津	西の班	和歌山800 さ 8296	H23. 3	石油 起債	トヨタ	積 載 車	1,990	ラビット	B-3 級 H23. 3	石油
	新田班	和歌山800 さ 8295	H23. 3	石油 起債	トヨタ	積 載 車	1,990	ラビット	B-3 級 H23. 3	石油
	脇の浜班	和歌山800 さ 8351	H23. 3	石油	トヨタ	積 載 車	1,990	ラビット	B-3 級 H23. 3	石油
	鰯川班	和歌山 80 あ 2146	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	上班	和歌山800 さ 9602	H26. 1	石油 起債	トヨタ	CD- I 型 消 防 車	4,000			
	小原班	和歌山 80 あ 2147	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	ラビット	B-3 級 H11. 2	石油
	小畑班	和歌山 80 あ 1858	H12. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
大崎	三郷班	和歌山800 さ 8734	H24. 2	石油 起債	いすゞ	CD- I 型 消 防 車	2,990			
	丸田班							トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	戸坂班	和歌山 80 あ 2150	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	戸坂班(上)							ラビット	B-3 級 H11. 2	石油
	方北班	和歌山 80 あ 2148	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	方南班							トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	大崎6班	和歌山880 あ 2660	R 5. 3	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-2 級 R 5. 3	起債
	大崎7班							トーハツ	B-3 級 H 8.12	防災

市単:単独事業 石油:石油備蓄補助 防災:防災まりづくり事業 国補:国庫補助 県補:県費補助

コミュ:コミュニティ助成事業 起債:緊急防災減災事業債等の地方債

【消防団車両配備状況 ④】

令和5年4月1日 現在

分団名		登録番号	登録年	事業別	車名	型式	排気量	小型動力	級別 購入年月	事業別
加茂	大窪班	和歌山 80 あ 1860	H12. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	市坪班	和歌山 80 あ 2155	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	橋本班	和歌山800 さ 9240	H25. 3	石油 起債	トヨタ	CD-1 型 消 防 車	4,000			
	小松原班	和歌山 80 あ 2153	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	青枝班	和歌山 80 あ 2154	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	中班	和歌山 80 あ 2152	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-2 級 H30. 12	起債
	下・小・梅班	和歌山 80 あ 2151	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	沓掛班	和歌山 80 あ 2156	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
仁義	興班	和歌山 80 あ 1859	H12. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	引尾班	和歌山 80 あ 2157	H14. 2	石油	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-3 級 H14. 2	石油
	曾根田班	和歌山800 さ 9250	H25. 3	石油 起債	トヨタ	積 載 車	1,990	ラビット	B-3 級 H25. 3	石油
塩津	1班	和歌山880 あ 2661	R 5. 3	起債	ダイハツ	積 載 車	650	トーハツ	B-2 級 R 5. 3	起債
	2班							ラビット	B-3 級 H11. 2	石油
団本部 防災広報車		和歌山500 も 7621	H23. 1	寄贈	日産	普 通 乗 用 車	1,490			

市単:単独事業 石油:石油備蓄補助 防災:防災まりづくり事業 国補:国庫補助 県補:県費補助

コミュ:コミュニティ助成事業 起債:緊急防災減災事業債等の地方債

【年間行事・活動内容】

- 1 月 海南市消防出初式に参加。
- 3 月 春季火災予防週間の期間中夜間における防火広報を実施する。
- 6 月 消防職団員による水防訓練実施する。（隔年）
- 7 月 県下消防操法大会に出場する。（隔年）
- 9 月 和歌山県消防学校 基礎教育派遣。
和歌山県消防学校 自然災害対応教育派遣。
和歌山県消防学校 幹部教育 指揮幹部科 現場指揮課程 分団指揮課程派遣。
- 10 月 和歌山県消防学校 基礎教育派遣。
- 11 月 秋季火災予防週間の期間中夜間における防火広報を実施する。
和歌山県消防学校 専科教育機関科派遣。
- 12 月 年末特別警戒を3日間市内全域を巡回、防火広報を実施する。

令和5年版
消 防 年 報

編集・発行

海南市日方1294番地13

海南市消防本部

T E L 073-482-0119

F A X 073-482-0088

E-Mail syobosomu@city.kainan.lg.jp

H. P <https://www.city.kainan.lg.jp>